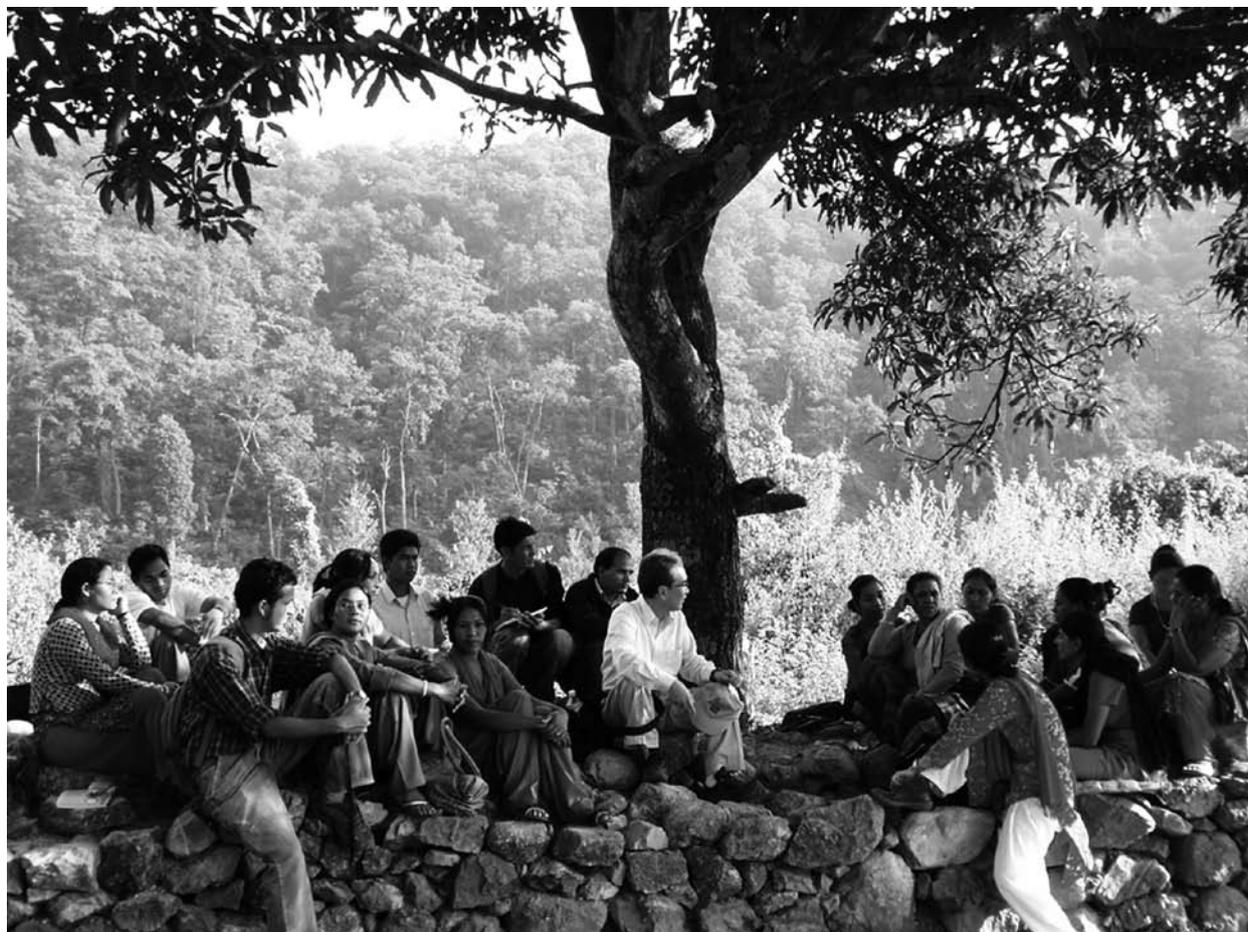


# 年次報告 2008

Annual Report 2008

2008 年度活動報告 / 決算報告 2009 年度活動計画 / 収支予算



特定非営利活動法人



＝市民による海外協力の会

## 目次

- 3 …………… はじめに
- 4 …………… 中期方針（2007-2011）の進ちよく状況
- 6 …………… 2008 年度報告と 2009 年度計画概要
- 8 …………… パートナー団体一覧
- 12…………… 2008 年度活動報告および 2009 年度活動計画
- 33 …………… 付表
- 36 …………… 2008 年度決算と 2009 年度収支予算
- 42 …………… 2009 年度役員一覧
- 43 …………… 主な掲載記事
- 44 …………… シャプラニール用語集  
(本文中の\*印は用語集に説明があります)

# はじめに

## 取り残された人々の周辺への働きかけの成果

2008年度は、5カ年の中期計画の2年目に当たりました。中期方針に基づいて1年目で取り掛かったものが、形になって見え始めたという意味ではたいへん充実した年だったと言えます。中期方針では、「取り残された人々」に援助するだけでなく、その周りの人々に働きかけるなどして、広い意味での当事者が問題解決に当たることを側面支援するという方針を明確に打ち出しました。当初は、そんなきれいごとが簡単に実現するとは思っていなかったのですが、バングラデシュではストリートチルドレンのドロップイン・センターの給食に必要な食材のほとんどを、地域の商店主などからの現物寄付でまかなえるようになるなど、数年前には考えられないような成果がすでに上がり始めています。

ところが、それは経営的な視点からすれば、必ずしも賢いやり方ではないのが現実です。現地 NGO にとっては、地域の人々に粘り強く働きかけるよりも、外部の援助団体から食糧購入費を丸まる支援してもらったほうが手取り早いし、援助する側にとっては、子どもたちへの給食は募金や寄付を呼びかけやすい「金のなる木」です。NGOの世界でも経営的な視点を優先させる風潮がますます強まっている昨今、そこをあえて現地化しようとする援助団体は、世界でもまれだと私たちは自負しています。そのような方針を取れるのも、「そんなシャプラニールだからこそ支援します」と言って下さる方々が数多くいるからに他なりません。本当にありがたいことです。

さらに、現地では、パートナー団体がメディアを通して社会に働きかけたり、行政と連携したりするのを側面支援しており、そのために不可欠な、働きかけの技能（これを私たちはファシリテーション技能と呼んでいます）を高めていくための協力も始めました。これも一方的に何かを教えるというのではなく、活動経験を振り返る中で互いに学びあうという方針の新たな形での実践のひとつと位置づけています。

途上国の社会に関わる一方で、私たちの多くは、好むと好まざるとにかかわらず、地域社会との接点をほとんど持たない都市型のライフスタイルを余儀なくされています。そんな中、東京事務局では、地域とのつながりをより強く意識した広報や国内活動の模索を意欲的に続けています。海外活動と同様に、その点でも、新たな展望が開けることを期待しています。

## 世界経済危機の中での NGO

2008年度を振り返るに当たり、アメリカの金融崩壊に始まる世界経済危機に触れないわけには行きません。それに関連して、先日、ある国際協力関係の会合で、参加型ワークショップのファシリテーターとして名高いNさんから以下のようなメッセージをいただきました。「私は、広告代理店勤めを本業としているのですが、私の周りでも、今回の世界経済の破綻を目の当たりにして、経済偏重の社会のあり方への根本的な疑問から、別の価値観を模索する人が増えています。NGOの皆さんは、そのような価値観を大切にせずとやってきたのだから、胸を張って、ますます活動を広げて行って下さい」私たちが本当にもうひとつの価値観を社会に十分に示してきたか、100%の自信はないものの、NGOの存在を、未来を照らす一筋の光と捉えてくれる方が他にもいることを信じ、活動のいつそうの充実を図っていこうと、決意を新たにしました。一方、この経済情勢の中、シャプラニールの財政状況もますます楽観を許さないことは確かです。2006年度、2007年度と決算が少しずつ赤字だったため、2008年度こそはと意気込んだにもかかわらず、最終的には黒字にできませんでした。クラフトリンク部門はかなり健闘しましたし、著しく落ち込んだ収入項目が特にあったわけではないのですが、個々の収入源が押しなべて伸び悩みました。2009年度予算は、大きな収入の伸びを期待せず、支出を細かく見直すなどして、より現実的なものにするべく努めました。

2009年度に入ってからすぐにネパールでは政権が崩壊し、再度大混乱に陥る可能性が高まるなど、南アジアの国々の社会的な安定への歩みは、「三步進んで二歩下がる」を地でいくような状態です。そんな中だからこそ、私たちは、市民による海外協力をさらに前面に押し出しながら、現地の人々、そして日本の皆さまとともに、小さなしかし着実な一歩を重ねていく所存です。どうかいつそうのご参加とご支援を賜りますようお願いいたします。

2009年7月  
代表理事

中田豊一

# 中期方針（2007～2011）の進ちよく状況

2007年度会員総会において承認された「中期方針（2007～2011）」は、5カ年のシャプラニールの活動の方向性をうたったもので、8つの基本方針があげられている。2007年度はこの基本方針に従って、5カ年の具体的な活動計画と財務諸表を立案した。ここでは、2008年度の各方針の進ちよく状況について、主だったものを報告する。また、2009年度には見直しを行う予定としている。

基本方針	
1. 「取り残された人々」への取り組みを強化します	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎バングラデシュとネパールの国別活動</li> <li>◎バングラデシュの農村では、寡婦*、*、家事使用人*として働く少女に対してサイクロン被災地域での活動が本格化し</li> <li>◎ネパールの農村では、河川のはんらん貧困女性に対する取り組みの計画を作成</li> <li>◎インドでは家政婦*として働く女性への</li> </ul>
2. 「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々にも積極的に働きかけていきます	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎バングラデシュのストリートチルドレ使用人として働く少女たちへの支援にツンペーン展開を企画している。</li> <li>◎ネパールでは働く子どもたち支援活動</li> </ul>
3. 日本のわたしたちも当事者という認識とそれに基づいた行動を広げていくために、情報発信や具体的な活動の場やしぐみを創っていきます  (ア) 市民による海外協力の輪を広げる (イ) 社会構造を変えるための提言・行動 (ウ) 私たちの生活のあり方の問い直し (エ) 国際機関、行政、企業との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎全国キャラバンや職員研修を通じて、</li> <li>◎市民が暮らしをよくするために参加するシャプラニールならではのフェアトレード</li> <li>◎ステナイ生活の輪は着実に拡大。TV、たな企業との協働も進んでいる。</li> <li>◎共生をわかりやすく説明するキャッチ</li> </ul>
4. 媒介者として当事者同士の経験交流やネットワーキングに努めます	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎青少年を農村活動の中に位置づけてい</li> <li>◎インドのパートナー団体がバングラデ</li> <li>◎ネパール事務所の現地職員がバングラ</li> <li>◎日本では、地域連絡会のユース世代と</li> </ul>
5. 「生産者の生活向上」を第一としてクラフトリンクの活動を進めていきます	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生産者の生活向上のため販売拡大に注</li> <li>◎さらなる販売力強化のため、品質の改体的な改善のためパートナー団体と協議</li> <li>◎フェアトレード団体としての存在感を</li> </ul>
6. 「取り残された人々」の現実および問題の構造を深く理解し、それを適切に支援していくための技能を高めていきます	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ネパール事務所職員およびパートナーラデシュでも2009年度計画している。</li> <li>◎東京事務局職員に対しては、全員での</li> </ul>
7. これまで力を入れてこなかった他の分野・地域についても可能性を探ります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎2008年G8サミットNGOフォーラム*</li> <li>◎災害の常襲地帯では、防災活動を開発</li> <li>◎次世代に続く青少年を開発の担い手と</li> </ul>
8. 理解者・支援者を増やし組織を一層充実させます	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎活動へ参加しやすくするため、マンス</li> <li>◎シャプラニールをわかりやすく伝える</li> <li>◎職員の働く環境を整備するため就業規</li> </ul>

現在の進ちょく状況	詳細掲載ページ
<p>戦略を策定した。 障がい者、エスニックマイノリティ*、働く子ども*、都市ではストリートチルドレン活動を行っている。この他に開発から取り残されている地域として、中洲での活動、している。 が多い地域で貧困住民の収入向上と防災活動を行った。また、2009年度から開始するした。都市では働く子どもたちへの取り組みを行った。 支援活動を行った。</p>	12～21
<p>ン支援活動では、地域住民へ活動が移譲できるように働きかけを強化している。家事 いては、雇用主へ活動に対する理解と協力を求めたほか、マスメディアを通じたキャ の中で、地域社会（雇用主や住民）との協働を進めている。</p>	12～19
<p>国内NPOや市民活動団体と協働し、日本の問題と海外協力の共通点について議論した。 る「クラフトリンク」のあり方が定着しつつある。環境と海外協力をリンクして考える、 ドを社会に向けて発信した。 ラジオ、雑誌などで「リユースによる海外協力」＝「ステナイ生活」が紹介され、新 コピー“「遠い」を「近い」に。”を策定した。</p>	26～30
<p>るバングラデシュの現地NGOに、パートナー団体の少女たちが訪問した。 シュの少女グループを訪問し、今後の協働について議論した。 デシュの活動を訪問見学し、意見交換を行った。 東京のユース・チーム（ボランティアグループ）の交流が生まれている。</p>	12～21 30
<p>力した。 善に取り組んでおり、品質基準策定に向けて作業を始めている。また、生産地では具 した。 高めるため、研究会などへの積極的に参加、発言している。</p>	22～25
<p>団体スタッフに対してファシリテーション能力向上のための研修を実施した。バング 研修機会を設けたほか、スキルアップのため他団体が実施する研修に参加した。</p>	19、21、 31～32
<p>への参加をする中で、政策提言やキャンペーンなどの分野について経験を蓄積した。 の中に位置づけた取り組みを行っている。 して育成するという視点での活動を行っている。</p>	12～15、20 31～32
<p>リーサポーターの拡大や認定NPO法人申請などに取り組んでいる。 ため、マスメディアへのアプローチを強化したり、ブランド再構築を行っている。 則の見直しや改定作業を行っている。</p>	31～32

# 2008 年度報告と 2009 年度計画概要

## (1) 海外活動

バングラデシュでは現在、海外からの援助資金の大半が少数の大規模 NGO に流れている。それに伴い、中小規模の NGO は資金提供団体（ドナー）からの資金が得やすいことを前提にした安易なプロジェクトを計画・実施する傾向がみられる。マイクロクレジット\*の提供も、そこから得られる利子収入を自己財源とすることに主眼が置かれ、本来 NGO が率先して取り組むべき社会運動が取り込まれなくなり、各地域社会の実情や住民の必要性に応じた活動が生まれにくくなってきている。また、10 年におよぶ紛争を経験したネパールでは、平和構築の分野が注目されると同時に、統計上、貧困の割合が高いとされる極西部にドナーの興味関心、NGO の活動がともに集中する傾向がある。さらに最近では、政治的な思惑から、活動の規模・内容にいたるまで政府による規制がこれまで以上に厳しくなっている。このような中、シャプラニールはこれまで以上に問題を構造的に理解し、分析することで、一時的な流行に惑わされずに「取り残された人々」\*への支援、および「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々\*への働きかけを積極的に進めるべく、すべての取り組みの質の強化に努めている。

### 2008 年度報告

#### バングラデシュ

- ・「取り残された人々」への取り組みとして、農村では寡婦\*・障がい者・エスニックマイノリティ\*・高齢者などに対する活動を行った。都市部ではストリートチルドレン\*や家事使用人\*として働く少女への支援活動を行った。
- ・サイクロン「シドル」被災地では、少年少女グループを育成し地域開発の担い手としての役割を担ってもらえるよう復興支援活動が始まった。
- ・ストリートチルドレン支援活動は、活動を地域住民に移譲するプロセスを開始した。

#### ネパール

- ・農村では貧困女性の生活向上支援活動の対象地を選定し、基礎調査とパートナー団体スタッフの準備研修を行った。プロジェクト計画立案作業をパートナー団体と時間をかけ実施した。
- ・貧困層に配慮した地域防災支援活動は貧困世帯への取

入向上研修を行った。また、防災地図（ハザードマップ）の作成も進めた。

- ・働く子どもたち\*への支援活動は、雇用主や地域社会への取り組みに力を入れた。

#### インド

- ・中長期的な活動の方向性を検討するためのタスクフォースを設置した。
- ・長期調査のために、職員を 6 カ月間現地に派遣した。

### 2009 年度計画

#### バングラデシュ

- ・チョール（中洲）\*における地域開発を本格化させる。
- ・農村部では、少年少女グループの活動を軌道にのせる。
- ・災害リスク軽減のためのコミュニティ防災\*モデル作りを開始する。
- ・障がい者・高齢者など取り残された人々への取り組みを継続する。
- ・ストリートチルドレン支援活動の地域住民への移譲を軌道にのせる。
- ・家事使用人として働く少女たちへの現状を、マスメディアを通じてバングラデシュ社会へ訴える。
- ・小規模優良 NGO への資金提供とその仕組みづくりを進める。

#### ネパール

- ・貧困層に配慮した地域防災活動では、地域の特性に応じた防災計画の修正作業を行いながら貧困世帯に対する収入向上に取り組む。
- ・貧困女性の生活向上支援を開始する。
- ・働く子どもたちへの取り組みは、地域社会との協働を強化する。

#### インド

- ・インドタスクフォースと調査活動を継続する。

## (2) クラフトリンク

世界的に市場規模が急速に拡大しているフェアトレード\*に対し、日本国内でも確実に関心が高まっている。新聞や雑誌、テレビなどマスメディアで取り上げられる機会が増え、フェアトレードに関する書籍も過去1～2年で数多く出版されていることは、その裏付けといえる。こうした背景から、クラフトリンクの活動や商品に対する注目度も上がり、講演依頼やマスコミからの取材、企業などからの問い合わせが増えている。一方、関心が高まるにつれて、当然ながらフェアトレードに対する見方も徐々に厳しくなると考えられる。実際に、やや批判的な視点で書かれた書籍や、研究者らによる検証の動きが散見されるようになった。シャプラニールとしてはフェアトレードに対する追い風を意識し活動の幅を広げる一方、一時的な流行に流されることのない、着実な活動を進めるための基盤づくりを行っている。

### 2008 年度報告

- ・新たな販売協力店が増えたこともあり、卸による販売額が増加した。
- ・商品開発に力を入れた結果、商品力がアップした。また積極的に広報を行い、新聞や雑誌などへの掲載につながっている。
- ・講師派遣や外部研究会への委員派遣などを積極的に行い、フェアトレードの普及にも尽力した。世界フェアトレード機関\* (WFTO) への加盟を決定し、申請作業を開始した。

### 2009 年度計画

- ・カタログ通信販売の売上増加を目指すとともに、卸販売の営業に力を入れる。
- ・品質基準の策定などを通じ、品質の維持・向上を図る。
- ・広報物の見直しや活動紹介 DVD の制作を通じて広報力を高める。活動の信頼度を高めるため、モニタリングおよび評価\*作業を進める。

## (3) 国内活動

日本国内で、不安定な雇用、経済格差の拡大、医療・介護の問題といった社会課題が深刻化する中で、コミュニティや家族関係のあり方が見直され、NPOといった市民の力が課題解決の担い手として期待されつつある。他方、2008年の洞爺湖サミットでは、政府にとっても環境、貧困、平和・人権の問題に取り組むにはNGO/NPOが決して無視できない存在になっていることが明らかになった。このように、日本社会においてますますNGO/NPOへの期待が高まっている中で、シャプラニールがこれまで実践してきた「社会課題を解決するためには、当事者の主体性を大切にし、課題の根本原因を分析して取り組むことが重要である」という活動姿勢をわかりやすく発信していく必要がある。そのため、より一層広報活動に注力していきたい。そして、社会課題の解決のためには市民による協力が欠かせないため、関心をもったボランティアやグループの活動が活発になるような環境づくり、フォローアップを積極的に行っていく。また、より多くの市民の方々に新たに海外協力へ参加してもらえよう、ステナイ生活\*のような取り組みやすいプログラムの提案を行っていく。

### 2008 年度報告

- ・G8サミットNGOフォーラムに運営団体として参加した。
- ・地域での活動者がつどう「共生のたね」を実施した。
- ・企業との連携強化のため積極的に企業を訪問した。
- ・ステナイ生活では、書き損じはがきを収集する年賀はがきキャンペーンが好調だった。
- ・秋に「全国キャラバン」を実施した。
- ・地方の会員と交流する「支援者と会う旅」を3カ所で開催した。
- ・2008年度取得予定の認定NPOは手続きが終了したものの、取得できなかった。

### 2009 年度計画

- ・支援者の拡大を組織をあげて取り組む。特にマンスリーサポーターの増加に力を入れる。
- ・広報を強化し、露出度を高める。
- ・認定NPOを取得する。
- ・全国キャラバンを中心に地域との交流を図る。

# パートナー団体一覧 (2009 年度)



## バングラデシュ

シャプラニールと実施中のプロジェクトに示した年間予算額はすべて、ダッカおよび東京事務所の管理経費を除く直接経費のみを記載。

### PAPRI (パプリ)

(Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives)

1999年、シャプラニールから独立してできた現地 NGO。首都ダッカの北東に位置するノルシンディ県（人口約170万人）内に活動拠点をもつ中規模 NGO として、マイクロクレジット\*、保健衛生など、広く農村開発に取り組む。スタッフ数は256人、シャプラニールも含めた全体の年間予算規模はおよそ3,900万円。独立した当初はシャプラニールのみをパートナーとしていたが、徐々に組織としての評価を高め、国連開発計画（UNDP）やユニセフ（UNICEF）などの大きな国際機関とも連携できるようになっている。

#### 【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：取り残された人々のエンパワメント  
活動地域：ノルシンディ県内の2郡（含：中洲）  
年間予算・スタッフ数：約750万円・15人  
裨益者数：約4,200人。間接的な裨益者も含めれば約10,000人。  
活動内容：(1) チョール（中洲）\*における地域開発、(2) 少女グループ支援、(3) 障がい者支援の3つの活動に取

り組んでいる。それぞれ支援の対象としている人々、一人ひとりが社会の一員として受け入れられ、生活を向上させていけるようになることを目指している。

### STEP (ステップ)

(Step Towards Empowerment of the Poor)

PAPRIと同様、2003年にシャプラニールから独立してできた現地 NGO。首都ダッカの西に位置するマニクゴンジ県内に5カ所の活動拠点をもち、61人のスタッフを抱えている。正式に独立してからまだ日が浅いこともあり、シャプラニール以外のパートナーはまだ1つしか得られていない。年間予算規模は約2,000万円。マイクロクレジットの提供を中心とした活動を積極的に拡大しつつ、財源の多様化にも努めている。

#### 【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：  
災害リスク軽減のためのコミュニティ開発  
活動地域：マニクゴンジ県内の2郡  
年間予算・スタッフ数：約1,330万円・22人  
裨益者数：約12,000人

## バングラデシュ

シャプラニールと実施中のプロジェクトに示した年間予算額はすべて、ダッカおよび東京事務所の管理経費を除く直接経費のみを記載。

活動内容：国境をまたぐ大きな河川が交差し、毎年のように大きな被害をもたらす洪水に対応し、社会的弱者の災害リスクの軽減を目指す。そのための核になる存在として思春期の世代の少女グループメンバーに注目し、防災に関する研修、地域住民主体のコミュニティ防災\*計画の策定などに取り組む。

## Aparajeyo・Bangladesh

### (オポロジェヨ・バングラデシュ)

TDH (Terre des homes / テレ・デ・ゾム) 財団ローザンヌ (スイス) が、バングラデシュの首都ダッカ市内のスラムで行っていた活動をそのまま引き継ぐ形で、1996年に独立してできた現地 NGO。子どもの人権を擁護するためのさまざまな取り組みを広く行っており、特にストリートチルドレン\*への支援ではバングラデシュで随一の組織として定評がある。国際機関、バングラデシュ政府ともさまざまな連携事業を展開しており、年間予算規模は1億5,700万円、スタッフ総数は565人と、確固たる組織基盤をもっている。シャプラニールとは2001年からのパートナー。

#### 【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：ストリートチルドレン支援

活動地域：ダッカ市内南東部、サエダバッド、ジャットラバリ地区

年間予算・スタッフ数：約570万円 (Aparajeyo・地域住民・シャプラニールの3者で負担)・12人

裨益者数：約1,000人

活動内容：路上で働き、暮らしている子どもたちを、おとなによる搾取や虐待から保護し、自ら生活を向上していけるようになるために必要な支援に取り組む。現在、ストリートスクール (青空学級) とドロップイン・センター (24時間対応可能な施設) の運営を実施しているが、地域住民への移譲する方向を決め、準備を開始した。

## Phulki (フルキ)

困難な状況にある女性たちとその子どもたちの生活向上を目的に、1991年に設立された現地 NGO。繊維工場で働く女性のための工場内託児所や、スラム内での託児・幼児教育などを通じて低所得層の働く女性たちを支援してきたほか、子どもたち自身が周囲の子どもに学んだことを伝えていく Child to Child アプローチによるスラムの衛生改善などを行っている。社会への政策提言を重視し、企業にも積極的に働きかけた結果、ナイキなどバングラデシュ内に工場をもつ多国籍企業の多くが託児設備を設けることに同意した。代表をはじめスタッフのほとんどが女性。シャプラニールを含め、多くの国際ドナーとパートナーシップを持っているが、専門的で質の高い活動が多く、年間予算規模3,760万円、スタッフ数180人と、中規模にとどまっている。

#### 【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：家事使用人\*として働く少女支援

活動地域：ダッカ市内4つの地区

年間予算・スタッフ数：約340万円・9人

裨益者数：約200人

活動内容：雇用主や地域住民の理解を得るための訪問活動から始め、少女たちが日中集まれる場としてのセンターをスラムや公務員住宅の中に設置、運営している。基礎的な教育から技術研修、レクリエーションの機会を提供するほか、各種メディアを通じて家事使用人の問題を広くバングラデシュ社会に訴えることにも力を入れている。

## JJS (ジェイ・ジェイ・エス)

(Jagrata Juba Shangha)

バングラデシュの南西部、クルナ県を拠点に、女性や子ども、社会的に疎外されてきた人々など、貧しさに立ち向かおうとする人への支援や、基本的な権利を守るための政策提言などに取り組む現地 NGO。1985年に設立。100人以上のスタッフを抱え、複数の国際ドナーと連携して多様な活動に取り組んでいるが、これまでマイクロクレジットの提供は行っていない点がユニーク。シャプ

## バングラデシュ

ラニールとは以前から交流があったが、実際にパートナーとして活動に取り組んだのは、2007年11月のサイクロン「シドル」に対する緊急救援が初めて。

### 【シャプラニールと実施中の活動】

活動名：サイクロン「シドル」復興支援

活動地域：バゲルハット県ショロンコラ郡ボクルトラ村  
年間予算・スタッフ数：約1,680万円（1年10ヵ月間）・15人

裨益者数：約3,000人

活動内容：事務所兼用の開発センターを建設し、そこを拠点に青少年グループの結成と育成、幼児教室の運営、各種技術研修、農業支援、情報ライブラリーの設置などに取り組んでいる。復興支援活動は2009年度末までで終了し、2010年度から中・長期のコミュニティ開発プロジェクトを実施する予定。

## ネパール

### CAPCRON（キャプクロン）

(Center to Assist and Protect Child Rights of Nepal)

子どもの権利条約など、児童に関する法規に専門性をもつ弁護士によって1991年に設立された現地NGO。弁護士だけでなく、ジャーナリストや社会活動家など、多くの人々との全国規模のネットワークをもち、主に働く子どもたち\*を対象に、留置所や刑務所に収監された子どもたちの弁護など、法的なサポートに取り組んでいる。専従スタッフもおいているが、弁護士のボランティア活動が中心。年間予算規模約800万円、スタッフ数9人の小規模な組織。

### 【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：働く子どもたちへの支援

活動地域：カトマンズ市内と近郊のレレ郡

年間予算・スタッフ数：約270万円・7人

裨益者数：約160人

活動内容：レストランや乗り合いバス、家事使用人として働く子どもたちを搾取と虐待から遠ざけ、安全な生活環境を作り出すための活動を実施。移動教室、巡回診療、ノンフォーマル教育\*、通学支援などの実施と同時に、働く子どもたちの問題を地域社会に訴え、広く理解を得ていくことに取り組んでいる。

### RRN（アール・アール・エヌ）

(Rural Reconstruction Nepal)

1989年にネパール人によって設立された現地NGO。現在、約340人のスタッフを抱え、裨益人口はおよそ60万人。年間予算規模も日本円に換算して約2億5,000万円と、ネパール最大のNGOのひとつ。特に女性、子ども、低位カーストおよびエスニックグループといった非常に厳しい状況にある人々のエンパワメント\*を目指した活動を展開。災害関連、特に洪水、地すべりに対するプロジェクトもこれまで10の郡にわたって実施した経験がある。

### 【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

## インド

プロジェクト名：貧困層に配慮した地域防災・開発

活動地域：チトワン郡内の2カ村

年間予算・スタッフ数：約750万円・10人（いずれも管理経費を除く現地直接送金分のみ）

裨益者数：390世帯から405人がメンバーとして活動に参加。間接的な裨益者数は2カ村の総人口、約13,000人。活動内容：洪水被害の頻発する地域のひとつであるチトワン郡において、防災意識の普及、小規模な洪水対策インフラの整備と同時に貧困層の収入向上活動に取り組むことで、災害時に最も深刻な被害を受ける人々の生活が守られるようになることを目指している。

## WATCH (ウォッチ)

(Women Acting Together for Change)

1992年に設立された現地NGO。物を与えるのではなく、人々が自立と持続的な開発のために組織化されるようファシリテートすることを目的とした活動に取り組んでいる。不利な立場におかれている人々、特に女性を対象にしたコミュニティ開発を、農村と都市の双方で展開。他のNGOを対象とした各種研修プログラムも多数実施している。複数の国際ドナーをパートナーとしているが、自己資金集めにも力を入れており、スタッフからの定額寄付、コンサルタント業務の報酬、ハーブ会社への投資利益などを資金源に複数の独自基金を所有している。年間予算規模は約2,300万円、スタッフ数62人。

### 【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：貧困女性の生活向上支援

活動地域：ナワルパラシ郡内の5カ村

年間予算・スタッフ数：約210万円・10人

裨益者数：約23,000人

活動内容：女性や貧困世帯、障がい者など、社会的に厳しい状況におかれている人々の生活向上を目指し、女性グループの結成と連帯組織の育成などに取り組む。2009年度はこうした活動の試験的な準備期間と位置づけ、世帯調査などを進めている。

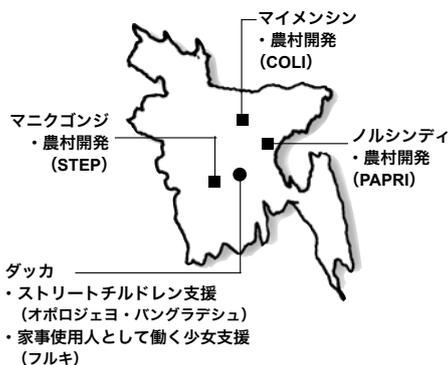
## DRCS

### (ディー・アール・シー・エス・シー)

(Development Research Communication & Service Centre)

各地域のもつ資源と生態系を重視し、持続的な農業と農村開発を中心に活動する現地NGO。1982年設立。西ベンガル州内12県で多くのパートナー団体を持ち、他の州との共同プロジェクトやネットワーキングも行っている。年間予算規模は約5,400万円。創設者であるオルデンドウ・S・チャタルジー氏はシャプラニールの古くからの友人で、インドを訪問する際、個人的に知己を得た駐在員も多い。現地スタッフを対象とした研修の講師をしてもらったり、バングラデシュからの研修の受け入れや調整をもらうなど、関係が深い。2006年度から3年間、DRCSをパートナーとした「子どもたちによる環境教育プロジェクト」を実施してきた。現在は用途をプロジェクトに限定しない、少額の組織支援を行っている。

# バングラデシュ



## 2008 年度活動報告

中期方針で示された方向性をより明確にするための模索を進めた結果、「取り残された人々」\*の問題を解決していくためには、「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々\*への働きかけが不可欠であるという認識が、パートナー団体にも共有できた。また都市部ではストリートチルドレン\*支援活動につき、段階をおってパートナー団体が地域住民へ移譲する方針を確認するなど、新しいバングラデシュ全体の活動の枠組みを考えるための準備の年となった。

### 1. 農村部での活動

パートナー団体：COLI、PAPRI、STEP

#### (1) 「取り残された人々」への取り組み

中期方針に示された「取り残された人々」に対し、個別具体的な状況に応じたきめ細かな支援の実施に年間を通じて取り組むことができた。一口に「取り残された人々」といっても、経済的に非常に困難な状況にある人々から社会的な差別に苦しむ人々まで、そのおかれている状況や地理的条件などは多様である。2008年度はそうした各人のニーズにこれまでよりも丁寧な対応ができるよう、組織体制およびプログラム構成の整理と見直しを行った。その結果、貯金の機会とマイクロクレジット\*の提供を中心とする多数の村人と、高齢者や障がい者、エスニックマイノリティ\*など、個々の生活状況に応じたきめ細かな相談業務などが必要な人々とに大きく分けた活動が進められた。特に高齢者については、従来と同様、高齢者集会を通じて地域における高齢者を取り巻く状況の把握に努め、改善すべき課題の整理を進めたことに加え、世帯を特定した定期的な訪問サービスも新たに導入した。

#### (2) 「取り残された人々」を取り巻く周辺の人々への働きかけ

少年少女グループの育成を重点的に強化した。少年少女グループは既存の活動地に加え、サイクロン「シドル」復興支援活動の実施地域でも今後の中長期的な取り組みを視野に入れた試みが開始されるなど、規模も拡大した。この他、行政村や郡、県などの行政組織との協働関係の構築については、約7年ぶりに実施された国政選挙や行政機構改革の行方を見極める必要があることから、いったん活動を休止している。

#### (3) 働く子どもたちへの取り組み

12のセンターを通じて働く子どもたち\*に対する支援活動を継続した。日々の仕事に忙殺され、本来享受されるべき教育や遊びの時間を得られなかった子どもたちにとって、貴重な学びとレクリエーションの機会になった。しかし、親や勤務先の都合によるメンバーの入れ替わりが激しく、これまでの取り組み方では個々のニーズに応えきれないことから、2008年度をもって活動をいったん休止することにした。



少女たち自ら早婚について劇にして伝える少女グループ (パートナー団体：STEP)

## 2. 都市部での活動

### (1) ストリートチルドレン支援

パートナー団体：Aparajeyo-Bangladesh

これまでおよそ9年間にわたって取り組んできたストリートチルドレン\*支援プロジェクトを終了するにあたり、パートナーであるAparajeyoおよび地域住民と今後のあり方について協議を重ねた結果、2009年度から2年間をかけてドロップイン・センターおよびストリートスクールの運営を地域住民に大きな比重をおく形で移譲していく方針を決定した。すでに活動地域内の市場から相当量の米や野菜の寄付が定期的にされるようになるなど、地域住民の積極的な活動への関与が始まってきている。一方、ストリートチルドレンを生み出さないようにすることを目的とした新規プロジェクトの立案は、候補地の選定と合わせ簡単な初期調査を実施するのに留まった。

### (2) 家事使用人として働く少女支援

パートナー団体：Phulki

少女たちが日中に集まり、悩みの共有や勉強、遊び、各種の研修を受ける拠点としてのセンターを、既存の2カ所に加えて1つ増設し、計3カ所での運営を継続した。3カ所目はセンターの場所を借りている地元の団体が今後活動を担って行ける可能性があることから、テストケースとしてこの団体に活動内容を指導しながら次第に移譲していく方針を決定した。2008年度中にもうひとつ別の候補地の選定作業を実施した。また、これまでの活動の様子をバングラデシュ社会に広く伝えていくため、新聞など各種メディアとの関係作りを積極的に進めた結果、大手の英字紙やベンガル語紙に写真付きの記事が複数回掲載された。



3カ所目のセンター（ルフノゴルセンター）に通う少女たちとスタッフ（パートナー団体：Phulki）

## 3. サイクロン「シドル」復興支援

パートナー団体：JJS

2007年度に実施したサイクロン「シドル」被災地に対する緊急救援および予備的な小規模復興支援活動に引き続き、2008年度は大規模な復興支援活動に取り組んだ。拠点となる開発センターの用地確保に手間取るなど、当初予定より数カ月程度の遅れはみられるものの、サイクロンで被災した人々の生活を着実に改善する成果をあげることができてきている。なお、将来にわたって村の社会変革の担い手としての役割を担ってもらうことを期待しつつ結成した少年少女グループの活動の継続を前提に、復興支援活動の期間が終了した後も引き続き、通常の農村開発活動を続ける方針を決定した。



サイクロン「シドル」復興支援では、農民グループを組織し、耕運機の貸出も行った（パートナー団体：JJS）

## 4. その他

### (1) 非常時における体制の確立

緊急事態が発生した際の即応体制確立の一環として、サイクロン「シドル」被災地に対する緊急救援活動および復興支援活動開始に至るまでの時系列の

記録、および地震被災時にダッカ事務所で必要となる物資のリスト作成を行った。

## (2) 治安情勢

2008年12月29日に実施された総選挙の結果、選挙管理内閣に政権が移行する前に野党だったアワミ連盟が大勝し、2009年1月、党首のシェイク・ハシナ氏が新首相に就任。特に大きな混乱もなく、平穏無事に政権移行が果たせたかに見えたが、2月25日（水）にBDR（国境警備隊）本拠地内で、軍関係者など70人以上が惨殺される事件が発生した。それに対する政府・軍の対応をめぐって突発的な緊急事態が発生する可能性があったことからシャプラニール内規による「危機的事態」を発令する事態となった。その後これに続く事件の発生はなく事態は落ち着いており2009年5月に「危機的事態」を解除した。しかしながら、真相はなおも不明のままであるため、今後も状況の推移を注視していく。

## (3) COLI とのパートナー終了

2005年にシャプラニールから独立し、イシヨルゴンジ郡で農村開発活動を実施してきたCOLIは、他地域でのマイクロクレジット活動を中心に進めていくこととなった。それに伴いイシヨルゴンジ郡での活動もこれまで貸し出したローンを回収するに留め、縮小することとなった。また、イシヨルゴンジ郡での農村開発も目ざましい動きが見られなかったため、2008年度末をもってシャプラニールとのパートナーシップを終了し、今後の活動の継続を行わないこととした。

### パートナー団体紹介 (バングラデシュ・農村部)

**COLI**  
(コリ/Community Organization for Livelihood Improvement)

マイメンシン県イシヨルゴンジ郡にあったシャプラニールの3カ所の地域活動センターを拠点に活動するNGO。2005年にシャプラニールから独立。

# 2009 年度活動計画

農村では「取り残された人々」に対する取り組みと同時に、当事者でもありこれからの開発の担い手としても期待している少年少女に対しての育成に力を入れる。都市では、地域住民への働きかけやマスメディアを利用した問題提起にも力を入れていくほか、現地での寄付集めなどにも取り組んでいく。バングラデシュではNGOの寡占化が進み、中小NGOへは資金が流れにくくなっており、良い活動を行っている団体でも活動を継続して取り組めない状況がある。2009年度はこれまでのネットワークや経験を活かして、こうしたNGOや活動に資金提供を行うことを始める。

## 1. 取り残された人々のエンパワメント（農村部）

パートナー団体：PAPRI

ノルシンディ県ベラボーおよびライプラ郡において、(1) チョール（中洲）\*における地域開発、(2) 少女グループ支援、(3) 障がい者支援の3つの活動に取り組む。2009年度は3カ年計画の1年目として、活動の枠組みを整え、対象となる人々の状況把握ならびに個別の支援内容の詳細を決定し、順次開始していく。特に(1)については2006年度からの経験を活かし、これまでの村委員会に代わり得る住民組織の結成を目指す。



聴覚障がいがある女性にミシンの研修を行う  
(パートナー団体：PAPRI)

## 2. 災害リスク軽減のためのコミュニティ開発 (農村部)

パートナー団体：STEP

これまで育成してきた少女グループが担い手となる災害リスク軽減のための活動を実施することで、新たなコミュニティ防災\*のモデル構築を3カ年計画で目指す。マニクゴンジ県ギオールおよびドウロトプール郡が活動地域となることから、毎年のように大きな被害をもたらす洪水に対応し、社会的弱者の災害リスク軽減につながるよう配慮する。なお、本プロジェクトは独立行政法人国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業（パートナー型）として2009年度中の開始を予定しているため、それまでは準備期間として、2008年度までの主要な活動を継続する。

## 3. ストリートチルドレン支援（都市部）

パートナー団体：Aparajeyo-Bangladesh

ドロップイン・センターならびにストリートスクールの運営主体を地域住民へ移譲するためのプロセスを2年計画で推し進める。また、現在午前・午後の1日2回実施しているサエダバッドのバスターミナルでのストリートスクールを1日1回のみとし、半日は野菜卸市場の近くでストリートスクールを開く。



ドロップイン・センターで勉強するジャハンギルくん。地域から画用紙や鉛筆の寄付もある（パートナー団体：Aparajeyo-Bangladesh）

## 4. 家事使用人として働く少女支援（都市部）

パートナー団体：Phulki

第2次3カ年計画の2年目として、さらなる活動の充実を目指す。具体的には4カ所目となる新規のセンターを開設し、活動の規模を拡大すること、またマスメディアを利用したバングラデシュ社会への問題提起に力を入れていく。

## 5. サイクロン「シドル」復興支援

パートナー団体：JJS

2008年5月から2009年10月までの1年半の計画で始まった復興支援活動だが、バングラデシュ政府からの認可取り付けに時間がかかったこと、開発センターの建設用地取得が遅れたことなどから、2009年度末まで5カ月間、期間を延長して活動を継続する。また、対象地域であるバゲルハット県シヨロンコラ郡ボクルトラ村は、非常に貧しい地域であることから、2010年度以降も中長期のコミュニティ開発プロジェクトを実施する前提で、2009年度中に新規活動計画を策定する。

## 6. その他

### (1) 新規プロジェクト

2008年度に引き続き、ストリートチルドレン支援に代わる新規プロジェクトの立案作業を継続する。また、NGOの寡占化とマイクロファイナンス

による自己資金獲得が進む中、良質かつ先駆的な活動に取り組む小規模な現地 NGO は資金難に陥っている。こうした NGO あるいはプロジェクトに限定した資金提供（ファンディング）を開始する。2009 年度は対象事例の選定を行う。

## (2) ダッカ事務所体制

2009 年度はダッカ事務所長の交代を予定をしている。また、ダッカ事務所の体制構築のため、現地職員を 2 名雇用する。

# ネパール

## 2008 年度活動報告

シャプラニールの中期方針の共有など、個々のプロジェクトの質をより一層高めるための地道な作業を推し進めた。特に、貧困女性の生活向上を目指した新規プロジェクトを農村部で開始するにあたっては、十分な時間をかけて準備するなど、パートナー団体と活動開始時に目的を共有することの重要性を常に意識して取り組んだ。

### 1. 農村部での活動

#### (1) 貧困層に配慮した地域防災・開発

パートナー団体：RRN

約3カ年におよぶ計画の1年目から2年目にあたる活動として、既存の防災グループメンバーの中でも、特に経済的に厳しい状況におかれている貧困世帯の人々に対し、野菜耕作やろうそく作りなど、生計向上につながる技術研修および初期投資資金の提供などを実施したほか、河川のはんらん備えた防災地図（ハザードマップ）の作成なども進めることができた。また、行政村や郡など、地方行政はもちろん、中央省庁との定期会合の機会を設け、活動の進捗よく状況を共有するとともに、今後の協働の可能性について検討した。

#### (2) 貧困女性の生活向上支援

パートナー団体：WATCH

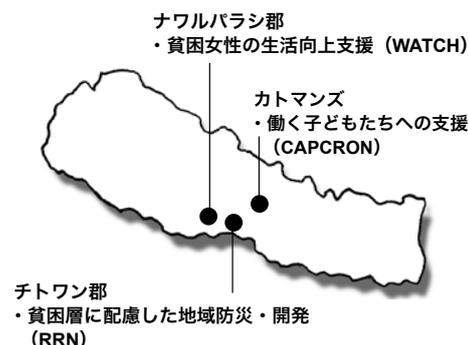
活動対象地域としてナワルパラシ郡を選定し、基礎的な地域調査ならびに今後現場担当者として活動する予定のスタッフに対する準備研修を実施した。なお、同地域ではWATCHが別プロジェクトで結成した女性グループとその連合体組織が複数存在していることから、2009年度以降の活動につなげるため、こうした既存グループメンバーへの予備的な研修も開始した。

### 2. 都市部での活動

#### (1) 働く子どもたちへの支援

パートナー団体：CAPCRON

第2次3カ年計画の1年目として、従来から実施してきた移動教室、ノンフォーマル教育\*（家事使用人として働く子どもたちのための教室運営）、奨学金支援、移動クリニックなどの諸活動に加え、親や雇用主、地域住民を含めた地域社会との協働を広く求める取り組みに力を入れた。ノンフォーマル教育を新規に開始した地区では、準備段階から地元青年会の協力をとりつけることに成功したほか、働く子どもを生み出している近郊地域での児童労働に関する啓発活動を実施することもできた。



親子でろうそくの袋詰めをする（パートナー団体：RRN）



ノンフォーマル教育修了式の様子（パートナー団体：CAPCRON）

### 3. その他

#### (1) 非常時における体制の確立

緊急事態が発生した際の即応体制確立の一環として、2008年夏の洪水（救援活動は実施せず）と2007年夏の西部平野洪水時の記録、および地震被災時にカトマンズ事務所で必要となる物資のリスト作りを行った。

#### (2) 治安情勢

延期に延期を重ねていた制憲議会選挙が2008年4月10日に実施され、1996年に武装蜂起をし、国政に大きな影響を与えてきたマオイスト（共産党毛沢東主義派）が単独過半数には届かないものの第一党となり、5月28日付けで王制から連邦民主共和制への移行が正式に宣言された。国のあり方が変わるという大きな社会変革の中、さまざまな背景をもった民族集団などがそれぞれの権利を主張する中で、小規模な衝突が繰り返され、市民生活にも多大な影響が生じている。また長期化する経済の低迷、電力をはじめとする基礎インフラの極端な不足も重なり、不安定な状況が続いている。

#### (3) カトマンズ事務所体制

パートナー団体や事業のモニタリング強化のため、現地職員を1名増員した。

## 2009 年度活動計画

既存の2つのプロジェクト（地域防災および働く子ども支援）を継続する一方、新規の活動である貧困女性の生活向上支援に注力する。また2008年度に引き続き現地職員を増員し、駐在員を含め7名の体制とする。

### 1. 貧困層に配慮した地域防災・開発（農村）

パートナー団体：RRN

プロジェクト実施計画の後半に入る2009年度は、防災グループが持続的に活動を発展していけるようになるための能力強化、および貧困世帯の生計向上により集中して取り組んでいく。またその際、現在活動しているチトワン郡内2つの行政村、それぞれの特性に応じた計画の修正も適宜進める。

### 2. 貧困女性の生活向上支援（農村）

パートナー団体：WATCH

2010年度からの中長期計画実施を前提に、2009年度は1年間のパイロットプロジェクトとして活動を実施する。ナワルパラシ郡内5つの行政区で、住民の生活状況を把握しつつ、必要なグループの結成と地方行政、他のNGOなどとの連携を目指した準備に取り組む。

### 3. 働く子どもたちへの取り組み（都市）

パートナー団体：CAPCRON

既存の活動を継続すると同時に、地域社会との協働については重点地域を

定めて集中的に取り組むことで、地元住民に活動の一部運営を担ってもらえるようになるなど、具体的な成果がさらに得られるようにする。

## 4. その他

### (1) 新規プロジェクト

2010年度の開始を目指し、新規プロジェクトの検討を開始する。

### (2) カトマンズ事務所体制

パートナー団体や事業の会計チェックの強化と行政との円滑なやり取りのため、現地職員を1名増員する。



地域の方たちとのミーティング（パートナー団体：CAPCRON）

## NGO スタッフにとって大切なこと (1) 海外活動グループチーフ 白幡利雄

NGOで働く人にとって、大切なことは一体なんでしょうか・・・ 私たちシャプラニールがいま、最も大切にしていることの一つは、社会に存在するさまざまな問題を構造的に理解し、分析できる力を身につけることです。中期方針にもとづいて改定された海外活動行動指針には、海外で活動する際の原則として次の3つを掲げています（※1）。

### (1) 当事者主体の原則

### (2) 事実に立脚した上で構造を理解する

### (3) 問題の根本的な解決を目指す

こう書いてしまうと一見簡単なことのように思えますが、実際はそうではありません。たとえば(2)で「事実に立脚し～」と書いてありますが、これがなかなかのくせ者。バングラデシュやネパールで、ある村人に「この村の問題はなんですか？」と聞いてみたとしましよう。「みんな貧しい」、「井戸がない」、「学校がない」などなど、

人によっていろいろな答えが返ってきます。全員の意見が一致することも、中にはありますし、そうでなくても話の流れの中で、大勢が「そうだそうだ、うちの村ではこれが問題だ」ということになる場合もよくあります。こうして、みんなが「これが問題だ」と考えることに基づいて、それを解決するための活動＝プロジェクトが組み立てられていくわけです。

経済の状況に限らず、どんな社会でも多かれ少なかれ、問題は抱えています。でも、それぞれの問題の要因は複雑に絡まり合っているのが普通ですし、ある問題の解決が別の問題を悪化させることになる、という例も珍しくはありません。「井戸がないからつける」というだけではダメなことは、随分前から分かっていたのですが、井戸がないことが本当に問題なのか、ということについては、実はあまり検証がされないままにしていることが、活動の現場ではよくあるのです。では、どうすればいいのでしょうか。

(21ページにつづく)

# インド



西ベンガル州  
・子どもたちによる環境学習  
(DRCSC)  
・家政婦として働く女性への  
支援 (Parichiti)

## パートナー団体紹介 (インド)

### PARICHITI (ポリチティ)

コルカタで活動する様々な NGO の活動家やジャーナリストらが有志で立ち上げた NGO。コルカタで唯一、家政婦として働く女性への支援を行う。1999 年設立。2006 年度からのパートナー。



環境学習を実施しているユースグループのメンバー (パートナー団体：DRCSC)



駅構内で相談にのるスタッフ (パートナー団体：PARICHITI)

## 2008 年度活動報告

2007 年度末に設置されたインドタスクフォースでの検討を重ねつつ、2006 年度から継続してきた 2 つの小規模プロジェクトが終了し、これまでの到達点と課題を整理する 1 年となった。パートナー団体とはプロジェクト運営を通じてお互いをよく理解し、活動の成果はもとより、今後もより良い関係を継続していける土壌を整えることができた。

### 1. 子どもたちによる環境学習

パートナー団体：DRCSC

これまで 3 年間にわたり、子どもたちがグループとして取り組む環境に関する学習活動への支援を西ベンガル州内各地で実施してきた。その結果、子どもたち自身が運営を担う環境リソースセンターが 10 カ所に作られた。持続的な活動ができる基盤ができたことから、プロジェクトとしての支援は 2008 年度をもって終了することとした。

### 2. 家政婦として働く女性への支援

パートナー団体：PARICHITI

家政婦\*として働く女性が日中自由に利用できるドロップイン・センター兼事務所の運営、駅構内での相談業務、また、彼女たちが通勤に利用する鉄道の環境改善 (女性車輦の増設、駅舎へのトイレ設置など) を訴える嘆願書を自ら提出するのをサポートするなどの活動を継続。徐々にセンターの利用者も増えるなどの成果があった。しかし、当初の計画期間が終了したこと、また PARICHITI 自身で活動を継続していく意志も確認できたことから、2008 年度をもって支援を終了することを決定した。

### 3. インド活動検討委員会

#### (インドタスクフォース) と長期調査

シャプラニールとしてインドで取り組むべき視点や今後の中長期的な活動の方向性を検討することを目的に、理事・職員によって構成される委員会 (インドタスクフォース) を設置し、2008 年度に計 7 回の会合を重ねた。また、集中的に NGO などの動向を調べるため、「NGO 長期スタディプログラム」(主催：外務省、事務局：特定非営利活動法人国際協力 NGO センター) を活用し、職員を半年間、長期調査員として西ベンガル州のコルカタに派遣した。

## 2009 年度活動計画

プロジェクトの実施や駐在員の派遣など、具体的な活動展開はひとまず休止するものの、インドにおける NGO を中心とした情報収集と調査を積極的に継続していく。そのため、2008 年度に設置したインドタスクフォースでの検討を引き続き行う。また、2008 年度の長期調査員の受入も含め、これ

までインドにおけるシャプラニールの活動拠点として、またプロジェクトのパートナーとしても存在してきた DRCSC に対する組織支援としての小規模な資金提供を新たに 2 年間実施する。



コルカタ市内の教育関連 NGO によるイベントなどに参加し調査（パートナー団体：DRCSC）

## NGO スタッフにとって大切なこと（2） 海外活動グループチーフ 白幡利雄

私たちスタッフ一人ひとりが、住民との対話をとおして本当の問題に気づく、あるいはお互いに気づいていくことができる能力を身につけるための努力を積み重ねていくしかありません。シャプラニールでは、これを「ファシリテーション」や「コンサルテーション」の技能と呼んでいます（※2）。2008 年度は、中田代表理事を講師にしたファシリテーション研修をネパールで 2 回（※3）、またインドのパートナー団体である DRCSC 事務局長のオンシュマン氏を講師にした研修をバングラデシュで 1 回、行いました。たとえばオンシュマン氏にはバングラデシュの少女グループを実際に訪ねてもらったのですが、「少女たちの自信と積極的な態度を見て、バングラデシュの農村女性についての固定的なイメージが破られた。ここまでもってきたのはすごいことだと思う」との評価をもらった一方で、「おとな（＝スタッフ）が決めた課

題や活動を押しつけている面がある」という指摘も受けました。普段とは違う立場の人と積極的に交流をもつことで、自分たちの勝手な思い込みを取り除ききっかけが得られるという好例でしょう。

私たちは、NGO スタッフが身につけるべき真に大切な力を磨くための努力を、これからも続けていきます。

※1：シャプラニールの WEB サイトで読むことができます。

<http://www.shaplaneer.org/about/guideline.htm/>

※2：中期方針（2007～2011）Ⅱ、基本方針の 6 番目に記されています。（URL は同上）

※3：ネパールでの研修の様子が、JICA の「月刊！プロジェクトマネージャーの 1 日 第 45 回」で紹介されています。

<http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/monthly/detail/45.html>

# クラフトリンク



札幌にあるフェアトレードショップ「Earth Cover」さん



左がオーナーの千徳さん

## 2008 年度活動報告

5カ年計画の中で「業務の信頼度を高める年」として位置付けられた2008年度は、人員体制の強化、ブランディング\*、品質改善への取り組み、ネットワークの強化といった点に注力し、今後活動規模を拡大していく上での基礎作りを行った。販売協力店舗や生活協同組合・百貨店などへの卸が伸びたことやトラカムバック\*・キャンペーンにより、売上は前年度比10.1%増の約7,600万円となった。

### 1. 販売促進

卸の取引先へ販促ツールを提供したほか、取引先限定のウェブサイトを立て上げるなど、既存の販売協力店舗へのサービスを強化した。新規取引先は59件増え、取引額も前年度比17.5%増加した。また百貨店などへの積極的な営業を心掛け、新たな取引も実現したほか、会員からの働きかけやウェブサイト経由で、生活協同組合や大手インターネット通販ウェブサイト、販売カタログなどでの取り扱いも始まった。ジュートバッグなどのオリジナル商品の製作依頼にも積極的に対応した結果、2008年度中に5件を受注したほか、多くの問い合わせが来ている。楽天市場\*では携帯電話で買い物をする人々をターゲットに、携帯電話への宣伝メールの配信を増やすなどの工夫をし、効果を上げている。2007年度から始まったトラカムバック・キャンペーンは新色を加えて継続し、14カ月のキャンペーン期間全体で2,500個、1,000万円(定価計算)を上回る売上を記録した。ネパールのコーヒーの販売を開始するべく調査を進めたが、品質の保持や法令遵守のための体制作りが現在の人員体制では難しいと判断し、当面取り扱いを見送ることとした。

#### トラカムバック・キャンペーン(2007年8月～2008年9月)

	2007	2008	計
販売数	1,517	1,011	2,528
販売額(定価ベース)	6,023,400	4,016,400	10,039,800
トラ保護基金への寄付額(販売額の4%)	240,936	160,656	401,592

### 2. 商品開発

関連する講演会、展示会などに積極的に参加し、情報収集に努めた。生産工程で出る余り布・糸などを利用したものや、現地の伝統や文化の紹介を意識した商品の開発に注力した。また購買者からの要望が高かった子ども用の商品開発を実施した。品質基準の策定へ向けて作業を開始し、一部商品につき洗濯試験などを実施した。また、初めてデザイナーが現地の生産現場を訪問し、生産者およびパートナー団体スタッフに対して技術指導やアドバイスを行ったほか、どのようにして品質を向上させるか、パートナー団体とともに議論した。



手織布の小銭入れ

### 3. 広報

広報力を高めるためのブランディング作業を進め、海外協力活動として誠実に取り組む姿勢や、日本における消費行動の見直しの訴えかけなど、クラフトリンクが打ち出すメッセージを明確化した。これに伴い、シャプラニールが考えるフェアトレード\*について説明したパンフレットを作成し、配布を開始した。新商品の販促および新聞・雑誌への掲載を目的とし、積極的にプレスリリース\*を配信するとともに、ウェブサイトでの露出度を高める努力をした結果、新聞13件、雑誌・書籍21件、他のウェブサイト2件の掲載があった。2009年度に予定しているDVD制作へ向け、制作費の助成金申請を行った。



シャプラニールが考えるフェアトレードを説明したパンフレット

### 4. フェアトレードの深化

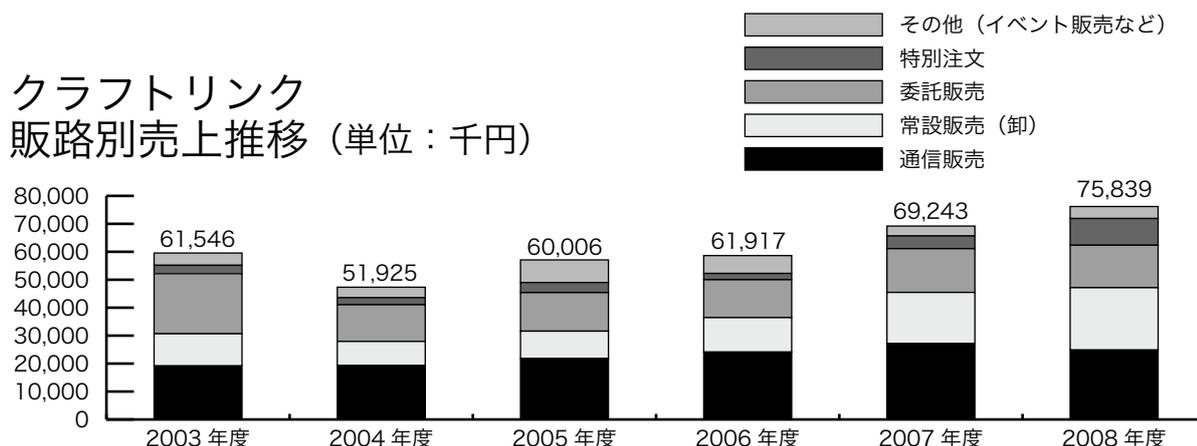
生産者やパートナー団体の状況を把握するため定期的な訪問はこれまでも行ってきたが、クラフトリンクの活動が適切に行われているかどうか、どれだけの効果をもたらしているのかなどを確認するためのモニタリングおよび評価\*作業を制度化すべく準備を進めた。国内では積極的に講演依頼を受け、13回の外部講演のほか、講演会を2回行った。

### 5. 運営体制の強化

商品開発デザイナーおよびウェブサイト制作デザイナーの勤務日数を増やすとともに、職員の役割分担を変更することにより品質改善と営業にかける人員の確保を図ったが、上記2職種は雇用形態の不安定さから人材の新規確保が難しく、時期によって欠員状態が続くことがあった。コスト削減のため船便を継続的に導入したほか、倉庫業務の外部委託の可能性について情報収集を始めた。職員が各種研修へ参加した一方、計画していた関連書籍の輪読は時間を確保することができず実施しなかった。フェアトレードに関する2つの研究会へ継続的に参加し、他団体との関係性を深めたほか、世界フェアトレード機関(WFTO)\*へ加盟することを決定し、申請手続の準備を進めた。

### クラフトリンク

販路別売上推移 (単位：千円)



# 2009 年度活動計画

5 年計画では 2010 年度を売上飛躍の年と位置付けている。2009 年度はその実現へ向け、引き続き活動全般の基盤強化を進めるとともに、販売力の強化にも注力する。商品開発においては基準作りを含め品質の向上へ向けた取り組みを続け、ギフト商品など新たな商品群の開発を進める。また、WFTO への加盟などを通してフェアトレード団体としての存在感・信頼度を高める。

## 1. 販売促進

販売協力店舗や生活協同組合、百貨店などへの卸、およびカタログ通信販売の売上拡大に力を入れ、販売力の土台の強化を目指す。同時に、オリジナルプリントや大口注文を増やすため露出度を高める工夫をするほか、労働組合などへの営業を行う。インターネット通販についてはウェブサイト制作デザイナーに業務を集約し、効率化を図る。また楽天市場での販売については、出店料や人件費などの出費も多いことから、費用対効果を再検証する年とする。

## 2. 商品開発

インターネット通販向けなど、ターゲットをしばったマーケティングによる商品開発の可能性を検討するほか、ギフト商品など新たな商品群の開発を進める。同時に、販売の起爆剤となるヒット商品の開発を目指す。品質管理においては、品質基準の策定、商品試験の実施を通じて品質の維持、向上を図る。



サイズの問題が多い帽子の編み方について生産者から話を聞いているところ

## 3. 広報

クラフトリンクの活動紹介 DVD を制作し、広報力を高める。また、2008 年度に行ったブランディングの成果に基づき各広報物の見直しを進める。効果的なプレスリリースやウェブサイトのリニューアルを通じて露出度を高める。

## 4. フェアトレードの深化

クラフトリンクの活動が指針に沿って適切に運営されているか、生産者やパートナー団体に対してどのような効果をもたらしているのかなどについて把握するため、定期的なモニタリングおよび評価作業を実施する。WFTO への加盟申請を進めるとともに、カトマンズで開催される会議に出席する。フェアトレード研究会などへも積極的に参加し、フェアトレード団体としての存在感を高める。地方も含めて講演などの依頼を積極的に受け、活動の裾野を

広げる努力をする。

## 5. 運営体制の強化

商品開発デザイナーおよびウェブサイト制作デザイナーの雇用形態の変更、職員の業務分担の見直しなどにより、営業や商品開発に関わる人員を増強する。また、販売管理システムの改善および倉庫業務の外部委託の可能性を検討する。職員の能力強化にも引き続き取り組み、関連する研修に参加するほか、海外研修も視野に入れて検討する。

### 広がる販売経路 クラフトリンクチーフ 小松豊明

フェアトレードに対する関心が高まる中、フェアトレード・ショップなどへの卸が伸びています。関心を持つのは専門店ばかりではありません。最近ではさまざまなところから引き合いが来るようになりました。

たとえば、企業に対しキャンペーン企画を提案する代理店からの問い合わせ。「化粧品会社のキャンペーンでフェアトレードのモノを使いたい」といった具合です。提案先企業も、住宅産業、パチンコ産業など、さまざま。残念ながらこういった代理店経由の場合、金額や生産期間の問題もあり、なかなか実現には結びつきませんが。

一方、取り扱いが実現したものの例としては百貨店があります。トラカムバック・キャンペーン期間中は関東、関西の百貨店との取引があったほか、丸井のインテリア部門「in The Room」では、現在も継続的にいくつかの商品を全国の複数店舗で扱ってくれています。また、引き出物などに使われる販売カタログへの掲載も始まりました。このような、今までにない大規模流通での取り扱いは、売上の増加に貢献するだけでなく、より多くの人々に知ってもらえる絶好の機会となることから、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## 手工芸品団体一覧 (2009年3月末)

国	団体名	正式名称	主な取り扱い商品
ネパール	ACP BCP ダッカ・ウィーヴズ マハグティ サナ・ハスタカラ WSDP	Association for Craft Producers Bhaktapur Craft Paper Ltd. Dhaka Weaves MAHAGUTHI SANA HASTAKALA Women's Skill Development Project	タルー・アップリケ、ニット製品 手すき紙カード ダッカ織 手織布衣料、ニット製品 ミティラ・アート、アロー製品 手織布バッグ
バングラデシュ	アーロン ジュート・ワークス カルポリ クムディニ プロクリティ サリー・アン シレイコン プロボルトナ YWCA	BRAC/Aalong CORR The Jute Works Karu Palli Kumudini Welfare Trust of Bengal Prokritee Sally Ann Shilleikon UBINIG/Prabartana YWCA Bangladesh	ノクシカタ・タベストリー/小物 ジュートバッグ/サンダル、素焼 小銭入れ、ブックカバー ろうけつ染、刺しゅう製品 レジバッグ、手すき紙 クリスマス・オーナメント 手織布バッグ、衣類 手織布衣料、手ぬぐい 指人形、ジュート製クッション

# 国内活動

## 2008 年度活動報告

シャプラニールの活動の姿勢をわかりやすく伝えるためのキャッチコピー作成やパンフレット制作を行った。また、ステナイ生活\*への協力提案を中心に企業、団体への訪問を積極的に行った。マンスリーサポーターなどの新たな支援者数は目標には届かず、会費・寄付額は前年度比 95.2%となった。一方、ステナイ生活は前年度比 110.4%の伸びであった。



全国キャラバンでのひとコマ。 Bangladesh シュカレーを手で食べる企画を行ったシャプラニールとちぎ架け橋の会



高山の地図を見ながら、ソムニードの国内生活を聞いた

### 1. 地域展開

地域連絡会やボランティア活動の支援体制作りの一環として国内活動専従の職員を配置したが、2008 年度前半は G8 サミット NGO フォーラム\*での活動が中心となったため活発な活動には至らなかった。2008 年 11 月から 12 月にかけて、Bangladesh のパートナー団体である STEP の専務理事 ションジョイ・クマール・ダス氏を招へいし、Bangladesh の農村の変化と家族の暮らしについて講演する全国キャラバンを開催した。その際、9カ所の地域連絡会の協力を得たほか、企画全体で 600 名を超える参加者があった。地域活動者が一堂に会する機会として「共生のたね」を 2008 年 10 月 3 日～5 日に岐阜県高山市で特定非営利活動法人ソムニード\*の協力を得て行い、海外協力 NGO の国内事業の事例を学んだ。内容は、「共生」をうたうシャプラニールにも通じる部分があり大変参考となったが、時期設定がよくなかったことや広報不足から参加者が 22 名に留まった。なお、地域連絡会への活動費補助金申請は 1 件であった。

### 2. 開発教育

ストリートチルドレンについて考える教材を中心に、例年並みの 23 件の貸出、11 件の販売を行った。東京、関西のユース・チームの活動に積極的に参加し、両者の交流を促した。スタディツアーを夏に Bangladesh、冬に Nepal で実施し、合計 20 名が参加し、海外活動への理解を深めた。春には高校生・大学生を対象としたスタディツアーを企画したが、最少催行人数に満たなかったため中止した。

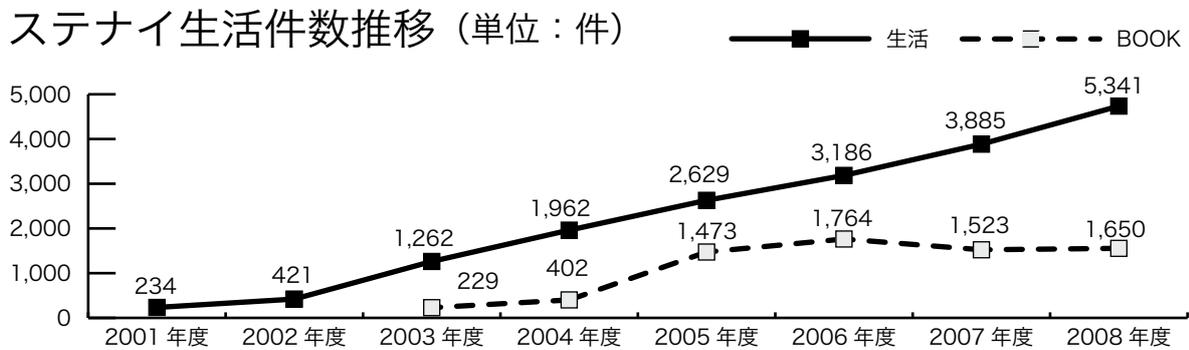
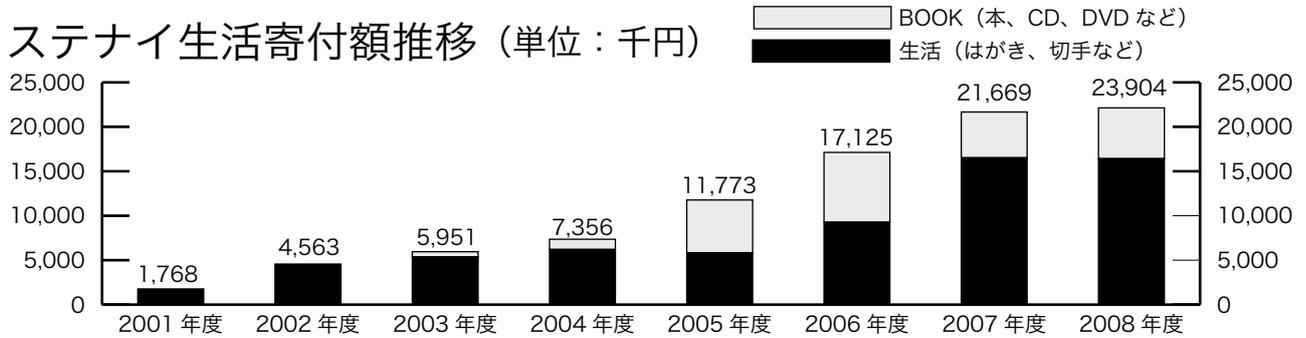
### 3. 活動支援者を広げる

#### (1) ステナイ生活の輪の拡大

ステナイ生活 寄付総額 23,903,969 円 (目標 2500 万円、目標比 95.6%)

キャッチコピー、ロゴ作成については議論を行ったものの、決定には至らなかった。ウェブサイトや会報、ステナイ通信 (2008 年 12 月発行のステナイ生活協力者向け情報誌) で事例紹介を行い、協力を呼びかけた。書き損じ年賀はがき収集キャンペーン (2008 年 12 月～2009 年 3 月) を実施し、「あなたのまわりにもう一人」を合言葉に知人に協力を勧めてもらえるよう、はがき送付の

ための封筒を支援者へ配布した。プレスリリース\*も積極的に行い、キャンペーンで3,000人を越える市民から4,000件近くの協力を得て、約780万円の寄付が集まった。



## (2) 市民参加のひとつの方法として、支援者を拡大する

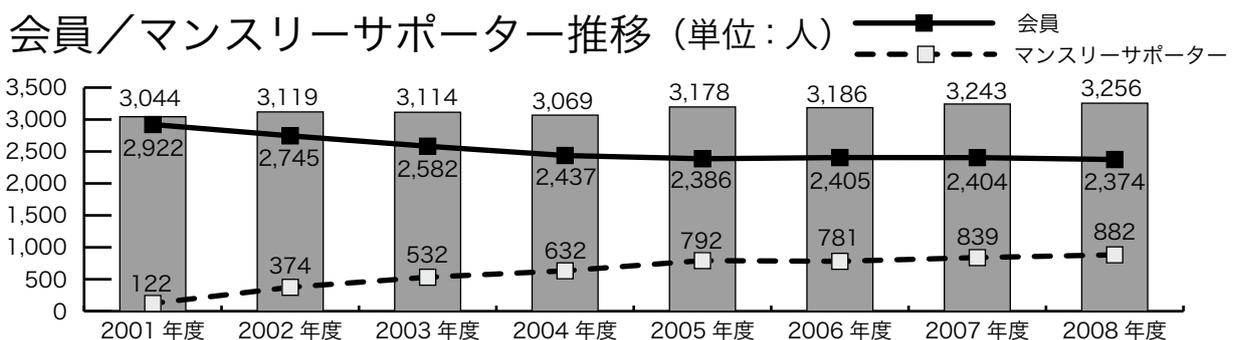
マンスリーサポーター新規申込人数 132名

寄付総額 14,518,400円 (目標 15,557,841円、目標比 93.3%)

マンスリーサポーターの呼びかけをウェブサイトおよび資料請求者、ステナイ生活やクラフトリンクの新たな支援者へ年間を通じて行った。また、マンスリーサポーターキャンペーン(2008年10月～12月)では、インターネット有料広告、雑誌「婦人之友」への有料広告、クラフトリンク販売協力店舗での写真展を行い呼びかけたが、目標100名に対し71名であった。一方、支援者との交流については「支援者と会う旅」を企画し、2008年6月に大阪と金沢で、7月に仙台で、それぞれの地域連絡会の協力を得て、支援者と活動について意見交換を行った。



「支援者と会う旅」大阪での様子



### (3) 支援者が関心を高められるように

国際協力やボランティアに興味がある人々を対象に国際協力入門講座を17回開催し、183名の参加があった。また、事務所で活動するボランティアにイベントや支援方法を案内するための情報管理を行い、活用を開始した。また、ボランティアとの積極的な交流を行い、継続的な関わりを持ってもらえるよう努力した。

## 4. 企業・団体との協働

シャプラニールは、これまで企業・団体に対して市民参加の視点から、社員・職員一人ひとりが参加できる社会貢献を呼びかけてきた。2008年度は勉強会やネットワークなどへの参加を通じて、企業・団体との関係強化に取り組んだ。また、約250の企業・団体へダイレクトメールやFAXで活動の紹介や社会貢献活動の提案を行った。社員・職員の有志で組織される社会貢献クラブとの連携も目立つようになってきた。すでにステナイ生活に取り組んでいる企業、団体については、積極的に訪問を行い、さらなる活動の理解、支援を呼びかけた。



ステナイ生活、クラフト販売に取り組んでいる自然派くらぶ生活協同組合の皆さま

## 5. 広く活動を伝える

### (1) メッセージの発信

シャプラニールの考える「共生」を伝えるための新しいキャッチコピーとして“「遠い」を「近い」に。”を採用し、広報物にて周知するとともに、各パンフレットを改訂した。活動紹介パンフレットはメッセージを効果的に伝えるためにカラー化した。シャプラニールをブランディング\*していくために、広報物で使用する色を定め、順次適用していく作業を進めた。マスメディア掲載回数はクラフトリンク、ステナイ生活を中心に104件（新聞52件、雑誌33件、テレビ7件、ラジオ3件、ウェブサイトなど9件）となった。2008年度中に予定していたウェブサイトの改訂は2009年度に持ち越しとなった。

### (2) コミュニケーション

支援者やボランティアの声を聞き、シャプラニールへの期待や関心事項を知るためにウェブサイトでアンケートを行えるシステムの導入を準備した。

### (3) 刊行物

会報「南の風」を隔月（年6回）、オピニオン誌「もうひとつの南の風」を年2回発行し、活動を会員に伝えた。メールマガジンも従来通り定期的に発行したが、読者数は前年度比マイナス273人となった。

## 2009 年度活動計画

ウェブサイトやマスメディアを活用して露出度を高め、シャプラニールの活動を多くの人に知ってもらおう。また、活動姿勢をわかりやすく伝え、共感者を増やしていく。共感した人ができる具体的な行動として、ステナイ生活、

マンスリーサポーター、クラフトリンク（フェアトレード\*）、ボランティアへの参加を促す。

## 1. 広く活動を伝える

### (1) メッセージの発信

新しいキャッチコピーである“「遠い」を「近い」に。”を具体的に浸透させる1年として、南アジアと日本に共通し、共感できる課題や取り組みを職員や関係者の事例を交えて、会報「南の風」やウェブサイトで紹介していく。また、10月には「家事使用人として働く少女たち」支援活動を事例にしたブックレット\*（シリーズ12）を発行し、「取り残された人々」への支援だけでなく、その周辺（地域や雇用主、マスコミなどの社会）への働きかけを重視するシャプラニールの活動姿勢を伝えていく。

### (2) マスメディアでの露出度を高めるために

プレスリリースの配信回数を増やし、内容を工夫することによりマスメディアでの掲載回数を増やしていくとともに、インターネット有料広告なども利用し露出度を高める。また、新聞社、テレビ、雑誌などマスメディア関係の個人や企業・団体のリストを整理・拡充するとともに、問い合わせに迅速に対応できるように広報素材を整理する。

## 2. 支援者を広げる

### (1) ステナイ生活の拡大

ステナイ生活 寄付目標額 2,310 万円

使用済み切手キャンペーン（7月）、年賀はがきキャンペーン（12月～3月）、大掃除（本、CD収集）キャンペーン（12月）を実施する。各キャンペーンでは、プレスリリースを強化する。支援者へのお礼や報告の回数、内容ともに充実させ、継続的な支援を促す。

### (2) 市民参加のひとつの方法として、支援者を拡大する

マンスリーサポーター新規申込目標人数 425 名、寄付目標額 1,730 万円

組織の財政基盤を安定させ、海外活動を継続、国内活動を充実させるために、マンスリーサポーターを中心に支援者を増やしていく。キャンペーンを2009年10月～12月に事務局、理事会が中心となり、支援者からの紹介といった協力を得ながら行い、425名の申し込みを目標とする。シャプラニールの認知度や信頼度向上のためにウェブサイトなどでの有料広告を利用する。また、より多くの人々が支援に参加・継続できるよう、会費・寄付の支払い方法の充実や送付物の工夫を行う。

## 3. 企業・団体との協働

2008年度に引き続き企業・団体の中にも市民による海外協力を広げるた

めに、社員・職員の参加による社会貢献を呼びかけていく。より広く、効率的な呼びかけを行うために、企業・団体リストを充実させる。また、2009年度は企業・団体の専門性（技術、設備、ノウハウ、情報、人材など）を活かした協働の可能性を探り、提案を行う。一方で、シャプラニールの理念や姿勢を企業・団体と共有し、対等で信頼できる協働関係を築くための指針の検討を始める。団体賛助会員や企業賛助会員などへの訪問を行い、継続的な支援、新たな協働を提案していく。

## 4. 支援者やボランティアが 出会える場作りとフォローアップ

シャプラニールの支援活動などを紹介する写真パネルの貸出の広報を積極的に行い、主に地域連絡会、クラフトリンク販売協力店舗で活用してもらうことで、地域活動の活発化やシャプラニールの地域での認知度向上を目指す。支援者同士が交流できる機会として全国キャラバン 2009 を地域連絡会やユース・チームの協力を得て秋に開催する。帰任予定のダッカ事務所長が、働く少女への支援活動をテーマに全国各地で講演を行う。シャプラニールに関わる最初の一步として国際協力入門講座を、年間 22 回の開催を目指して実施する。さらに、テーマ性を持った「もっと知りたい講座」を定期的に開催することで、事務局に集まるボランティアとの交流を深め、継続的に参加してもらえるようにする。また、各地でシャプラニールの活動にかかわる高校生、大学生の活動状況を把握し、関係性を深める。なお、東京のユース・チームとともに、8月に「中学生・高校生フォーラム」を、2月に大学生向けの「The ☆ Forum」を行う。



中学生・高校生フォーラムでのカレー実習  
(2008年8月)

## 5. 開発教育

教材に加え、写真パネルの貸出なども実施する。スタディツアーはバンングラデシュ、ネパールあわせて合計3回企画する。

### 東京事務局を中心としたボランティア活動（ユース・チーム）

国内活動グループチーフ 勝井裕美

大学生を中心としたユース・チームは2008年8月に2回にわたり「中学生・高校生フォーラム」を企画実施しました。また、2009年2月には大学生向けの「The ☆ Forum 国際協力種まき合宿」をいずれも2泊3日の宿泊企画として行い、合計53名が参加し好評でした。2008年度は同様の企画を、関西の地域連絡会の大学生

ボランティアが中心に行い、栃木県の地域連絡会で活動する大学生とも交流が始まっています。さらに東京では、6月には自主講演会「売春婦の子どもに生まれて～二重に差別されるストリートチルドレン～」を開催。6月のバンングラデシュフェスタや10月のグローバルフェスタなどでクラフトリンク販売などを企画し行っています。

# 組織の充実

## 2008 年度活動報告

2008 年度は事務局長の交代など、4 人の職員が入職、3 人が退職と事務局の人事が大きく動いた年であった。

### 1. 支援者拡大に向けて

2009 年 3 月末現在、会員数 2,374 名（正会員 1,183 名、賛助会員 1,191 名）、マンスリーサポーター数 882 名。2008 年度中に会員が 30 名減少し、マンスリーサポーターが 43 名増加した。

### 2. 労働環境の整備

2008 年度は労働環境改善の一環として、育児休業、介護休業に関する事項を見直した。また、海外旅行傷害保険規程ならびに退職金積み立ての改定、新たに災害補償規程の策定を行った。職員の給与体系を含む時間外労働制度については、他団体への聞き取りや具体的な導入についての検討を行った。

### 3. 危機管理

東京事務局における、災害などの危機管理マニュアルの整備に関しては、情報を収集するに留まり、マニュアル作成には至らなかった。

### 4. 認定 NPO 法人取得に向けて

2007 年度末に申請を行って以来、国税局からの聞き取りが断続的に行われた。国税局から求められた資料はすべて提出しており、シャプラニール側の作業は終了していると思われるものの、1 年以上経過した現在にいたっても認定が下りておらず、いつになるかの情報も得られていない。

### 5. 市民社会組織としての責任と貢献

シャプラニールのこれまでの経験・知見に基づき、開発協力や NPO マネジメントのノウハウを求められる機会は年々増加している。2008 年度は日本で開催された G8 サミットに向けて結成された 141 の NGO で構成するネットワーク「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」\*に参加し、これまでシャプラニールがあまり取り組んでこなかった提言活動に積極的に関わった。また、さまざまな団体や委員会に参加したほか、学校や中間支援組織などにおける講演・ワークショップの講師派遣を 52 回行った。海外では、活動国であるネパールとバングラデシュで行われた国政選挙に、日本政府の選挙監視団の一員として職員、役員を派遣した。市民社会組織としての健全な組織運営のあり方を客観的に評価するため、特定非営利活動法人国際協力 NGO セ



Accountability Self-Check 2008

ンター (JANIC) が作成したアカウンタビリティ・セルフチェックを実施し、認証を得た。

## 6. その他

組織力を向上させるための研修として、東京都内の子どもに関する活動や地域活動を行う NPO や市民グループへ東京事務局職員全員が1泊2日で訪問したほか、8名がスキルアップのための研修を受講した。また、「NGO 長期スタディプログラム」(主催：外務省、事務局：JANIC) に参加し、インドで長期調査を行った。



東京事務局職員全員が参加した研修

# 2009 年度活動計画

2009 年度は中期方針に伴う、5 カ年活動計画の中間年となる年である。世界的不況の中、これまでの中期方針と活動計画の見直しと軌道修正を行う。

## 1. 組織基盤の充実

中期方針では、支援者を増やし組織の一層の充実させることをうたっている。2009 年度は、支援者の拡大を、組織をあげて取り組む。また、一層の社会的影響力を発揮できるように、職員の能力向上を目的とした研修も積極的に行う。

## 2. 労働環境の整備

職員の時間外労働をはじめとする給与体系の見直しを行い、2009 年度中に財務状況を勘案し導入を予定している。また事務作業の効率化に向け、業務分掌の見直しを行う。

## 3. 市民社会組織としての責任と貢献

2009 年度も各団体、委員会に役員、職員を派遣するほか、外部講師派遣や独立行政法人国際協力機構 (JICA) 「市民社会支援プログラム」研修員受け入れへの協力、庭野平和財団「南アジアプログラム」への協力をを行う。

## 4. その他

2008 年度から懸案になっている東京事務局が災害などに遭遇した際の危機管理マニュアルの策定を行うほか、認定 NPO 法人の取得を予定している。

# 付表

## ■国内カレンダー

### 2008 年度

4月26日	評議員会
6月～7月	支援者と会う旅（金沢・大阪・仙台）
6月28日	会員総会
8月8日～10日	中学生・高校生フォーラム
8月26日～28日	中学生・高校生フォーラム
8月15日～24日	スタディツアー（バン格拉デシュ）
10月25日	評議員会
10月3日～5日	共生のたね
10-12月	マンスリーサポーターキャンペーン
11-12月	全国キャラバン 2008
12月19日～28日	スタディツアー（ネパール）
2月13日～15日	The ☆ Forum（大学生対象の宿泊型勉強会）

### 2009 年度（予定）

4月25日	評議員会
5月29日	支援者と会う旅（北九州）
6月27日	会員総会
8月8日～11日	中学生・高校生フォーラム
8月7日～16日	スタディツアー（バン格拉デシュ）
9月	評議員会
10-12月	マンスリーサポーターキャンペーン
10-11月	全国キャラバン 2009
12月	スタディツアー
2月	The ☆ forum（大学生対象の宿泊型勉強会）
3月	スタディツアー

## ■各地域連絡会の主な活動

### シャプラニール道東連絡会

- ・川湯駅前につこり雑貨市出店（クラフト展示販売、北海道弟子屈町川湯小学校跡地、6月7日～8日）
- ・クラフト展示販売（標茶町の観光牧場内の売店、5月～11月）

### シャプラニール札幌連絡会

- ・全国キャラバン 2008 受入（くすみ書房、12月6日）

### シャプラニール仙台ポンドウの会

- ・仙台グローバルさみっと出展（クラフト販売・活動紹介・トーク、仙台メディアパーク、6月8日）
- ・支援者と会う旅受入（仙台市市民活動サポートセンター、7月26日）
- ・仙台国際センター「地球フェスタ」（手工芸品販売、仙台国際センター、9月21日）
- ・全国キャラバン 2008 受入（仙台市市民活動サポートセンター、11月30日）

### シャプラニール山形連絡会

- ・全国キャラバン 2008 受入（山形国際交流センター、12月1日）

### シャプラニールとちぎ架け橋の会

- ・フェスタ my 宇都宮（クラフト販売・フリーマーケット、宇都宮市駅東公園、4月13日）
  - ・ミニ講演会（東京事務局職員による活動紹介、宇都宮大学、5月10日）
  - ・松が峰教会バザー（クラフト販売 カトリック松が峰教会、5月25日）
  - ・モニョングロ村エコツアー（里山の保全と多文化共生を学ぶワークショップ、市貝町、6月29日）
  - ・勉強会（ラテンアメリカの大国メキシコ-その社会と NGO、とちぎ国際交流センター、7月5日）
  - ・たなばたキャンペーン（G8 サミット NGO フォーラム キャンペーン、宇都宮市、7月6日）
  - ・勉強会（「開発とは ラダックより」を見て討論、とちぎ国際交流センター、8月2日）
  - ・とちぎインターナショナルフェスティバル（クラフト販売・ワークショップ・サリー着付け、栃木県子ども総合科学館、10月4日）
  - ・宇都宮大学大学祭（クラフト販売・料理販売・フリーマーケット、宇都宮大学、11月22日～24日）
  - ・全国キャラバン 2008 受入（とちぎ国際交流センター、11月29日）
  - ・勉強会（学生インターン報告 とちぎ国際交流センター、12月6日）
  - ・新年会（東京事務局職員による話、とちぎ国際交流センター、1月17日）
  - ・勉強会（学生メンバーによる卒業論文要旨発表、とちぎ国際交流センター、2月7日）
  - ・栃木ボランティア市民活動フォーラム & NPO 見本市（クラフト販売・活動紹介、とちぎ健康の森、2月8日）
  - ・国際交流パネル展（活動紹介パネル展示 宇都宮国際交流プラザ、3月8日-20日）
- 上記のほか毎月の定例会と通信「KAKEHASHI」（季刊）の発行を行った。

### シャプラニール金沢連絡会

- ・支援者と会う旅受入（金沢市、7月26日）
- ・全国キャラバン 2008 受入（金沢市民芸術村事務所和室、11月24日）

### シャプラニール地域連絡会関西（せっつ・大阪・南大阪・兵庫の4つの地域連絡会が合同で実施）

- ・9条世界会議・関西ブース出店（大阪市、4月28日）
- ・INE いのちはめぐる出店（大阪市、5月11日）
- ・講師派遣（「ストリートチルドレン」大阪薫英女子短期大学「多言語多文化」授業、摂津市、5月29日）

- ・支援者と会う旅受入（大阪市、6月22日）
- ・JICA 大阪 「国際協力セミナー」分科会担当（茨木市、8月2日）
- ・ローズ WAM ワクワクキッズパーク ストリートチルドレンパネル展示（茨木市、8月20日）
- ・アイハウス夏祭り “The 賑わい” 2008 出店（大阪市、8月24日）
- ・講師派遣（JICA 兵庫「Youth Meets A2 開発途上国の人々と私たちの生活の接点から持続可能な明日を考えよう」神戸市、9月14日）
- ・講師派遣（「海外の貧困・日本の貧困」大阪府立福井高等学校、茨木市、10月2日）
- ・「共生のたね」に参加（高山市 10月3日～5日）
- ・講師派遣（「国際協力をふれてみよう」神戸工科高等学校、神戸市、10月9日）
- ・講師派遣（「ストリートチルドレン」富田林市立明治池中学校、富田林市、11月7日）
- ・全国キャラバン 2008 受入（大阪府立女性総合センター、11月16日）
- ・神戸工科高等学校文化祭（フェアトレード商品販売サポート、神戸市、11月22日）
- ・講師派遣（「フェアトレード」NPO法人アジア子供支援フジワーク基金、高槻市、12月7日）
- ・INE いのちはめぐる 出店（大阪市、12月7日）
- ・講師派遣（「地域開発論」大阪経済大学、12月19日）
- ・「ワン・ワールドフェスティバル」出店（大阪市、12月20日21日）
- ・JICA 兵庫 「Youth Meets A2 開発途上国の人々と私たちの生活の接点から持続可能な明日を考えよう」閉幕式参加（神戸市、1月11日）
- ・シャプラニール関西 学習会「一緒に学ぼう 野宿者問題」新年会（茨木市、1月11日）
- ・関西ユースフォーラム開催（大阪市、2月21日22日）

ほか定例会を6回開催

#### シャプラニール京都

- ・全国キャラバン 2008 受入（京田辺市商工会館、11月22日）

#### シャプラニール北九州／福岡連絡会

- ・全国キャラバン 2008 受入（北九州市立大学小倉サテライトキャンパス、12月13日）

#### シャプラニール中津連絡会

- ・全国キャラバン 2008 受入（講演会および地元中学校での公民授業「世界の子どもたち」参加、中津市立小幡記念図書館、12月14日）

## ■助成金関連一覧

味の素「食と健康」国際協力支援プログラム：バングラデシュ・最貧困層

特定非営利活動法人 WE21 ジャパン旭：バングラデシュ・少女グループ

社団法人海外運輸協力協会（JTCA）：バングラデシュ・小規模融資

外務省・日本 NGO 連携無償資金協力：

ネパール・働く子どもたち、バングラデシュ・マイクロクレジット原資、バングラデシュ・ストリート・チルドレン

独立行政法人国際協力機構（JICA）：ネパール・防災農村開発

社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）：ネパール・バングラデシュ交流研修

公益信託地球環境日本基金：インド・環境教育

財団法人地球市民財団：バングラデシュ・家事使用人として働く少女

日本労働組合総連合会（連合）愛のキャンパ：バングラデシュ・農村開発

財団法人庭野平和財団：バングラデシュ・日本市民交流

三井住友銀行ボランティア基金：バングラデシュ・最貧困層

三菱商事株式会社：バングラデシュ・家事使用人として働く少女

UI センセン同盟ボランティア活動：バングラデシュ・児童教育

独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険機構国際ボランティア貯金：バングラデシュ・農村開発

財団法人ユニバーサル財団：日本・全国キャラバン 2008

## ■協力団体・委員会一覧（2008年度、法人格略）

- ・国際協力 NGO センター（JANIC）（理事長）
- ・2008年 G8 サミット NGO フォーラム（副代表）
- ・日本 NPO センター（副代表理事）
- ・庭野平和財団（南アジアプログラム・アドバイザー）
- ・NGO- 労働組合国際協働フォーラム（委員）
- ・東京ボランティア・市民活動センター（運営委員）
- ・東京都国際交流・協力 TOKYO 連絡会（委員）
- ・JICA バングラデシュ PRDP 国内支援委員会（委員）
- ・社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（会員）
- ・シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会（会員）
- ・開発教育協会（会員）

## ■会員・寄付者分布

都道府県名	会員	寄付者	マンシリ-サポーター
北海道	79	70	41
<b>北海道計</b>	<b>79</b>	<b>70</b>	<b>41</b>
青森県	7	17	3
岩手県	11	19	3
宮城県	29	34	11
秋田県	12	5	6
山形県	12	13	4
福島県	28	19	10
<b>東北計</b>	<b>99</b>	<b>107</b>	<b>37</b>
茨城県	34	22	12
栃木県	35	27	13
群馬県	24	17	11
埼玉県	124	103	45
千葉県	138	107	52
東京都	669	533	258
神奈川県	284	273	108
<b>関東計</b>	<b>1,308</b>	<b>1,082</b>	<b>499</b>
山梨県	18	14	4
長野県	37	34	11
新潟県	32	32	11
富山県	11	6	0
石川県	26	11	4
福井県	7	5	2
<b>甲信越計</b>	<b>131</b>	<b>102</b>	<b>32</b>
岐阜県	16	12	10
静岡県	67	62	16
愛知県	98	86	23
三重県	27	23	11
<b>東海計</b>	<b>208</b>	<b>183</b>	<b>60</b>

都道府県名	会員	寄付者	マンシリ-サポーター
滋賀県	12	13	6
京都府	50	57	21
大阪府	119	108	37
兵庫県	54	67	23
奈良県	21	26	5
和歌山県	7	6	3
<b>近畿計</b>	<b>263</b>	<b>277</b>	<b>95</b>
鳥取県	4	11	3
島根県	5	9	2
岡山県	21	16	13
広島県	28	28	11
山口県	22	23	8
<b>中国計</b>	<b>80</b>	<b>87</b>	<b>37</b>
徳島県	10	10	2
香川県	6	10	1
愛媛県	17	20	7
高知県	4	9	2
<b>四国計</b>	<b>37</b>	<b>49</b>	<b>12</b>
福岡県	57	57	32
佐賀県	4	12	2
長崎県	15	16	8
熊本県	9	7	1
大分県	18	10	9
宮崎県	7	3	1
鹿児島県	17	12	7
沖縄県	16	8	8
<b>九州沖縄計</b>	<b>143</b>	<b>125</b>	<b>68</b>
海外	26	4	1
<b>海外計</b>	<b>26</b>	<b>4</b>	<b>1</b>
不明		33	
<b>総計</b>	<b>2,374</b>	<b>2,119</b>	<b>882</b>

## ■執行部一覽 (2009年3月31日現在)

### ○代表理事

中田豊一

### ○理事

岩城幸男、大橋正明、里見駿介、城千聡、田尻佳史、筒井哲朗、辻村聖子、長畑誠、中本かほる

### ○監事

雨森孝悦、梅沢良雄、福澤郁文

### ○評議員

荒木美奈子、五十嵐理奈、池田恵子、岩附由香、遠藤絵理子、遠藤大輔、萱野智篤、川村宏義、北河原孝子、斎藤千宏、坂口和隆、佐竹町子、下澤嶽、ジュエル M.Q.、庄野真代、白土謙二、杉澤経子、鈴木隆二、田中浩平、東田芳治、徳木久人、

永井幸子、長沢恵美子、新村恵美、西野桂子、子島進、前澤哲爾、山崎みどり、吉田ユリノ

### ○事務局長

筒井哲朗

### ○事務局職員

秋庭智也、石井大輔、植田貴子、内山智子（バングラデシュ駐在員）、小嶋淳史、勝井裕美、京井杏奈（2008年7月入職）、小松豊明、白幡利雄、菅原伸忠（2008年10月入職）、杉山和明、福岡あき子（2008年9月入職）、藤岡恵美子（バングラデシュ駐在員）、藤崎文子（ネパール駐在員）、松本芳美 ※坂口和隆（2008年6月退職）、鈴木綾香（2008年5月入職、6月退職）、中村怜奈（2008年10月退職）

# 2008 年度決算と 2009 年度予算

## 2008 年度決算

2008 年度の決算にかかる会計監査は公認会計士佐藤泰久氏により 5 月 19 日に終了し、理事の業務執行の状況および財産の状況についての監査は同日 3 名の監事により行われ、当会の会計報告書は 2009 年 3 月 31 日現在の財政状態および同日をもって終わる期間の収支の状態を適正に表示している旨の報告を受けた。

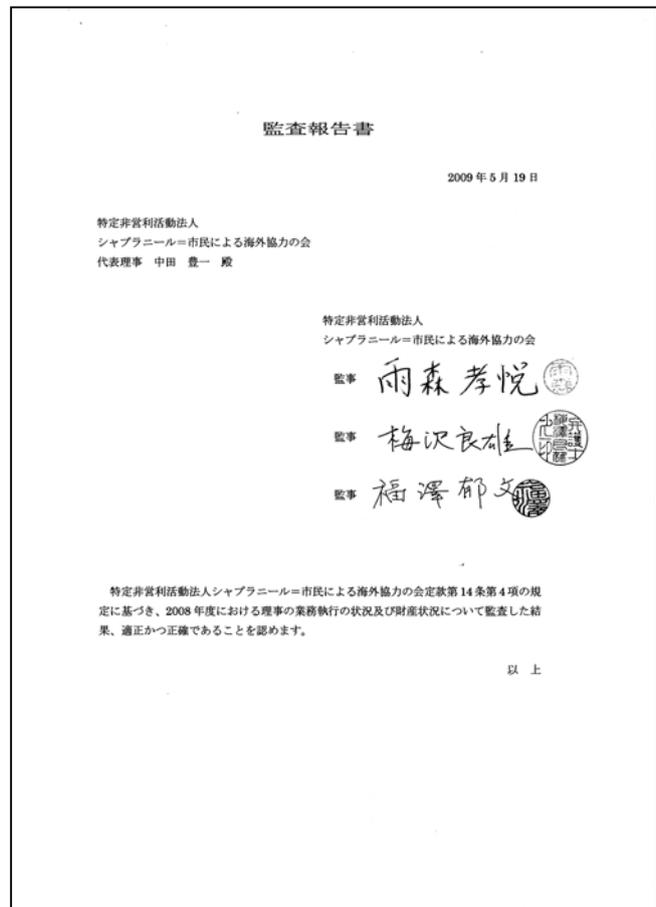
2008 年度の収支状況は、収入合計 2 億 2,833 万円（前年度比 1,467 万円減）、支出合計 2 億 3,122 万円（前年度比 1,755 万円減）となり、その結果 288 万円の赤字となった。2007 年度に発生したサイクロンの復興支援活動を 2008 年度も引き続き実施したことからその経費 361 万円を計上したため、緊急救援会計では 339 万円の赤字となったが、一般会計では 50 万円の黒字となった。

- ・ 会費収入は 2,321 万円（前年度比 5 万円減、0.2% 減）と 2007 年度並み。
- ・ 寄付金収入は 5,828 万円（前年度比 90 万円減、1.5 % 減）とほぼ 2007 年度並み。寄付金の内訳をみると物品寄付（前年度比 226 万円増、10.4% 増）やマンスリーサポーター（前年度比 129 万円増、9.8% 増）は好調だったが、一般寄付（前年度比 285 万円減、15.7% 減）が 2007 年度を大きく下回る事となったため全体では伸びなかった。
- ・ 助成金・補助金収入（外務省、JICA、ボランティア貯金、民間助成金）は 5,101 万円（前年度比 1,890 万円増、58.9% 増）と 2007 年度を大幅に上回った。
- ・ クラフトリンク活動は、収入 7,646 万円（前年度比 719 万円増、10.4% 増）と 2007 年度に続き順調に売上を伸ばした結果、活動収支は 608 万円の黒字となった。
- ・ 知的貢献活動収入は 1,496 万円（前年度比 279 万円増、23.0% 増）と好調（緊急救援収入を除いた収入合計に占める割合は 6.6%）だった。
- ・ 海外活動費は、予算比 88.5%（バングラデシュ活動費 82.3%、ネパール活動費 80.3%、インド活動費 143.1%）であった。
- ・ みらいファンドは、預託 8 件（300 万円）が満期を迎え、うち 5 件（170 万円）が再預託、1 件（2 万円）がみらい寄付への振替となった。したがって、期末残高は 2,211 万円（預託分 1,150 万円、寄付分 1,061 万円）となった。
- ・ 支出合計（緊急救援会計を除く）に占めるスタッフ人件費の割合は 33.9% であった。
- ・ 自己財源率は前年度比 9.1 ポイント減の 77.7% となった。

## 2009 年度予算

2009 年度収支予算案は収入合計、支出合計とも 2 億 4,887 万円（前年度予算比 190 万円減）を計上し、収入は前年度実績比 2,053 万円増を見込んでいる。2009 年度は 5 年計画で予定された規模拡大と現状の社会情勢や財政状況を勘案した予算とした。海外活動においては新規事業開始とそれに伴う人員拡充による支出増に対し、その財源として助成金・補助金収入の増収、また国内各事業においては広報活動への資金投入を厚くし、寄付金収入などの増収を見込んでいる。

- ・ 支出合計（緊急救援会計を除く）に占めるスタッフ人件費の割合は 33.8% と見込んでいる。
- ・ 自己財源率は 70.3% となっている。



特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

（単位：円）

科 目	2008年度 収支予算	2008年度決算				2009年度 収支予算	構成比
		本 体	緊急救援	合 計	予算差異 (千円)		
<b>I. 収入の部</b>							
会費収入	23,319,000	23,210,080		23,210,080	△109	23,300,000	9.4%
寄付金収入	62,960,000	58,287,786		58,287,786	△4,672	60,880,000	24.5%
一般寄付	15,920,000	15,309,231		15,309,231	△611	15,180,000	6.1%
マンスリーサポーター	15,558,000	14,518,400		14,518,400	△1,040	17,300,000	7.0%
物品寄付	25,000,000	23,903,969		23,903,969	△1,096	23,100,000	9.3%
基金・指定寄付	6,483,000	4,556,186		4,556,186	△1,927	5,300,000	2.1%
緊急救援収入	0		222,086	222,086	222	0	0.0%
助成金・補助金収入	65,688,000	51,013,349		51,013,349	△14,675	74,044,000	29.8%
外務省	23,500,000	12,266,840		12,266,840	△11,233	14,517,000	5.8%
国際協力機構（JICA）	16,037,000	15,044,428		15,044,428	△993	35,880,000	14.4%
郵便貯金・簡易生命保険管理機構	9,591,000	6,036,251		6,036,251	△3,555	9,511,000	3.8%
その他の民間助成金	16,560,000	17,665,830		17,665,830	1,106	14,136,000	5.7%
事業収入	98,472,000	95,375,713		95,375,713	△3,096	90,472,000	36.4%
クラフトリンク活動収入	78,200,000	76,465,646		76,465,646	△1,734	77,000,000	30.9%
国内活動収入	6,647,000	3,947,063		3,947,063	△2,700	5,722,000	2.3%
スタディツアー	3,767,000	1,632,754		1,632,754	△2,134	3,767,000	1.5%
ユースフォーラム	1,000,000	1,015,000		1,015,000	15	800,000	0.3%
キャラバン	900,000	687,815		687,815	△212	730,000	0.3%
開発教育教材	180,000	131,000		131,000	△49	220,000	0.1%
入門講座等	800,000	480,494		480,494	△320	205,000	0.1%
知的貢献活動収入	13,625,000	14,963,004		14,963,004	1,338	7,750,000	3.1%
他団体ツアー受入	500,000	1,211,170		1,211,170	711	950,000	0.4%
委託事業	10,625,000	11,913,266		11,913,266	1,288	4,800,000	1.9%
講師派遣	2,500,000	1,838,568		1,838,568	△661	2,000,000	0.8%
雑収入	340,000	227,841		227,841	△112	180,000	0.1%
<b>当期収入合計（A）</b>	<b>250,779,000</b>	<b>228,114,769</b>	<b>222,086</b>	<b>228,336,855</b>	<b>△22,442</b>	<b>248,876,000</b>	<b>100.0%</b>
前期繰越収支差額	59,676,357	3,176,101	56,500,256	59,676,357	0	56,788,571	
<b>収入合計（B）</b>	<b>310,455,357</b>	<b>231,290,870</b>	<b>56,722,342</b>	<b>288,013,212</b>	<b>△22,442</b>	<b>305,664,571</b>	
<b>II. 支出の部</b>							
海外活動費	104,209,000	92,262,661		92,262,661	△11,946	102,039,000	41.0%
バングラデシュ活動費	62,525,000	51,455,533		51,455,533	△11,069	55,139,000	22.2%
ネパール活動費	23,764,000	19,090,830		19,090,830	△4,673	23,697,000	9.5%
インド活動費	1,972,000	2,822,481		2,822,481	850	891,000	0.4%
海外活動管理費	15,949,000	18,893,817		18,893,817	2,945	22,312,000	9.0%
クラフトリンク活動費	78,200,000	70,381,036		70,381,036	△7,819	76,517,000	30.7%
売上原価	28,066,000	22,174,009		22,174,009	△5,892	23,137,000	9.3%
販売費	15,780,000	13,858,434		13,858,434	△1,922	15,467,000	6.2%
一般管理費	34,354,000	34,348,593		34,348,593	△5	37,913,000	15.2%
国内活動費	9,288,000	7,286,352		7,286,352	△2,002	13,355,000	5.4%
スタディツアー	3,310,000	893,362		893,362	△2,417	3,310,000	1.3%
ユースフォーラム	800,000	926,242		926,242	126	785,000	0.3%
キャラバン	1,000,000	1,429,482		1,429,482	429	935,000	0.4%
開発教育教材	100,000	35,180		35,180	△65	117,000	0.0%
入門講座等	100,000	239,989		239,989	140	100,000	0.0%
ビデオ制作	-	-		-	-	3,564,000	1.4%
地域活動費	800,000	613,399		613,399	△187	300,000	0.1%
国内活動管理費	3,178,000	3,148,698		3,148,698	△29	4,244,000	1.7%
知的貢献活動費	8,069,000	8,698,363		8,698,363	629	3,600,000	1.4%
他団体ツアー受入	300,000	697,310		697,310	397	400,000	0.2%
委託事業	7,369,000	7,688,145		7,688,145	319	2,900,000	1.2%
講師派遣	400,000	312,908		312,908	△87	300,000	0.1%
広報活動費	18,714,000	14,049,393		14,049,393	△4,665	19,511,000	7.8%
広報費	3,499,000	3,312,065		3,312,065	△187	4,957,000	2.0%
広報活動管理費	15,215,000	10,737,328		10,737,328	△4,478	14,554,000	5.8%
緊急救援活動費	0		3,619,520	3,619,520	3,620	1,440,000	0.6%
支援企画管理費	18,300,000	18,202,143		18,202,143	△98	21,054,000	8.5%
本部管理費	13,999,000	16,725,173		16,725,173	2,726	11,360,000	4.6%
<b>当期支出合計（C）</b>	<b>250,779,000</b>	<b>227,605,121</b>	<b>3,619,520</b>	<b>231,224,641</b>	<b>△19,554</b>	<b>248,876,000</b>	<b>100.0%</b>
当期収支差額（A）－（C）	0	509,648	△3,397,434	△2,887,786	△2,888	0	
次期繰越収支差額（B）－（C）	59,676,357	3,685,749	53,102,822	56,788,571	△2,888	56,788,571	

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

(2009年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	本 体	緊急救援	みらい	合 計
<b>I 資産の部</b>				
<b>1.流動資産</b>	<b>53,785,255</b>	<b>53,102,822</b>	<b>2,692,963</b>	<b>77,841,187</b>
現金預金	7,365,525	17,924,588		25,290,113
売掛金 (注1)	7,387,226			7,387,226
有価証券		5,433,139		5,433,139
商品	19,649,333			19,649,333
貯蔵品	9,212,267			9,212,267
未収金	8,052,422			8,052,422
前払費用	261,375			261,375
前払金	1,857,107	698,205		2,555,312
特別会計貸付		29,046,890	2,692,963	( 31,739,853 )
<b>2.固定資産</b>	<b>12,233,593</b>	<b>0</b>	<b>19,421,903</b>	<b>31,655,496</b>
什器備品	426,892			426,892
電話加入権	74,984			74,984
その他無形固定資産	154,245			154,245
退職積立預貯金	10,386,968			10,386,968
敷金	581,040			581,040
基本金積立預金	609,464			609,464
みらいファンド預金			19,421,903	19,421,903
<b>資産合計</b>	<b>66,018,848</b>	<b>53,102,822</b>	<b>22,114,866</b>	<b>109,496,683</b>
<b>II 負債の部</b>				
<b>1.流動負債</b>	<b>51,336,667</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>19,596,814</b>
商品券	55,000			55,000
未払金	5,245,042			5,245,042
前受金	9,878,393			9,878,393
預り源泉所得税	326,824			326,824
預り住民税	114,800			114,800
未払消費税	1,130,400			1,130,400
賞与引当金	2,846,355			2,846,355
特別会計借入	31,739,853			( 31,739,853 )
<b>2.固定負債</b>	<b>10,386,968</b>	<b>0</b>	<b>11,500,000</b>	<b>21,886,968</b>
みらいファンド預託金			11,500,000	11,500,000
退職給付引当金	10,386,968			10,386,968
<b>負債合計</b>	<b>61,723,635</b>	<b>0</b>	<b>11,500,000</b>	<b>41,483,782</b>
<b>III 正味財産の部</b>				
基本金	609,464			609,464
みらいファンド			10,614,866	10,614,866
次期繰越収支差額	3,685,749	53,102,822		56,788,571
(うち当期収支差額)	( 509,648 )	( △ 3,397,434 )		(△ 2,887,786)
<b>正味財産合計</b>	<b>4,295,213</b>	<b>53,102,822</b>	<b>10,614,866</b>	<b>68,012,901</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>66,018,848</b>	<b>53,102,822</b>	<b>22,114,866</b>	<b>109,496,683</b>

(注記事項)

1. 売掛金の貸倒引当金は244,205円である。

特定非営利活動に係る事業会計財産目録  
(2009年3月31日現在)

(単位:円)

科	目	金	額
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金	現金手許有高	479,784	
預貯金	郵便貯金 馬場下町郵便局	1,265,065	
	郵便振替口座 馬場下町郵便局	2,241,218	
	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	21,304,046	
売掛金(注1)	手工芸品関連	7,387,226	
有価証券	公社債投信 野村證券株式会社	5,433,139	
商品		19,649,333	
貯蔵品	切手等	9,212,267	
未収金	社団法人 海外運輸協力協会	3,126,173	
	独立行政法人 国際協力機構	4,291,228	
	株式会社ヒラタオフィス	120,000	
	株式会社 小学館	78,750	
	外務省	436,271	
前払費用	日新火災海上保険株式会社	177,039	
	ファーストサーバー株式会社	63,278	
	理想科学工業株式会社	21,058	
前払金	有限会社ぐらする一つ	34,600	
	日新火災海上保険株式会社	131,350	
	現地パートナー団体プロジェクト費次期繰越分	2,389,362	
	流動資産合計		77,841,187
<b>2. 固定資産</b>			
什器備品		426,892	
電話加入権		74,984	
その他無形固定資産		154,245	
退職積立預貯金	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	10,386,968	
敷金	財団法人 早稲田奉仕園	581,040	
基本金積立預金	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	609,464	
みらいファンド預金	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	19,421,903	
	固定資産合計		31,655,496
	資産合計		109,496,683
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
商品券		55,000	
未払金	独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構	3,409,627	
	東日本電信電話株式会社	5,930	
	財団法人 早稲田奉仕園	49,272	
	藤ビルメンテナンス株式会社	13,650	
	ヤマト運輸株式会社	382,083	
	郵便事業株式会社	1,205	
	日本テレネット株式会社	5,812	
	株式会社大塚商会	16,055	
	楽天株式会社	112,494	
	佐川急便株式会社	65,257	
	株式会社NTT-ME	1,155	
	有限責任中間法人2025PROJECT	401,640	
	海外新聞普及株式会社	2,300	
	オフィックス株式会社	43,534	
	社会保険事務所	592,269	
	東京労働局	80,147	
	その他	62,612	
前受金	財団法人 庭野平和財団	322,466	
	外務省	9,416,049	
	手工芸品関連	139,878	
預り源泉所得税		326,824	
預り住民税		114,800	
未払消費税		1,130,400	
賞与引当金		2,846,355	
	流動負債計		19,596,814
<b>2. 固定負債</b>			
みらいファンド預託金		11,500,000	
退職給付引当金		10,386,968	
	固定負債計		21,886,968
	負債合計		41,483,782
	正味財産		68,012,901
			109,496,683

(注記事項)

1. 売掛金の貸倒引当金は244,205円である。

# 【参考】

## みらいファンド残高増減

(単位：千円)

区 分	期首残高	2008年度の増減		期末残高
		減	増	
みらいファンド預託金	12,800	3,000	1,700	11,500
みらいファンド	10,595	0	20	10,615
合 計	23,395	3,000	1,720	22,115

## 収支計算書推移

(単位：千円)

	2006年度	2007年度	2008年度
I. 収入の部			
会費収入	23,299	23,265	23,210
寄付金収入	64,702	59,198	58,288
緊急救済収入	263	42,900	222
助成金・補助金収入	33,186	32,019	51,013
事業収入	79,807	85,038	95,376
クラフトリンク活動収入	61,917	69,244	76,466
国内活動収入	3,070	3,536	3,947
知的貢献活動収入	14,820	12,258	14,963
雑収入	42	591	228
当期収入合計 (A)	201,300	243,011	228,337
前期繰越収支差額	73,455	65,444	59,676
収入合計 (B)	274,755	308,455	288,013
II. 支出の部			
海外活動費	76,758	80,925	92,263
クラフトリンク活動費	66,102	68,994	70,381
国内活動費	3,936	4,057	7,286
知的貢献活動費	9,299	9,742	8,698
広報活動費	14,605	13,342	14,049
緊急救済活動費	1,386	38,455	3,620
支援企画管理費	15,689	17,067	18,202
本部管理費	21,537	16,196	16,725
当期支出合計 (C)	209,312	248,778	231,225
当期収支差額 (A) - (C)	△8,011	△5,767	△2,888
次期繰越収支差額 (B) - (C)	65,444	59,676	56,789

クラフトリンク活動収支

(単位：千円)

	2007年度決算	2008年度予算	2008年度決算	2009年度予算
売上高	69,244	78,200	75,839	77,000
売上原価	24,238	28,066	22,174	23,137
期首商品棚卸高	16,001	17,473	17,473	19,649
当期商品仕入高	25,709	27,989	24,351	23,137
海外仕入	24,822	26,200	20,371	18,852
国内仕入	887	1,789	3,980	4,285
期末商品棚卸高	17,473	17,396	19,649	19,649
売上総利益	45,006	50,134	53,665	53,863
販売費及び一般管理費	44,756	50,134	48,207	53,380
販売費	14,274	15,780	13,858	15,467
一般管理費	30,482	34,354	34,349	37,913
営業利益	250	0	5,458	483
営業外収益	30	0	627	0
営業外費用	0	0	0	0
経常利益	280	0	6,085	483

貸借対照表推移

(単位：千円)

	2006年度	2007年度	2008年度
I 資産の部			
1.流動資産	73,762	84,309	77,841
うち 商品	16,001	17,473	19,649
2.固定資産	35,721	32,370	31,655
資産合計	109,483	116,679	109,497
II 負債の部			
1.流動負債	9,008	22,527	19,597
2.固定負債	23,946	23,270	21,887
うち みらいファンド預託金	15,500	12,800	11,500
負債合計	32,955	45,798	41,484
III 正味財産の部			
基本金	609	609	609
積立金	0	0	0
みらいファンド	10,475	10,595	10,615
次期繰越収支差額	65,444	59,676	56,789
正味財産合計	76,528	70,881	68,013
負債及び正味財産合計	109,483	116,679	109,497

# 2009 年度役員一覧

---

## 代表理事

中田豊一（参加型開発研究所代表）

## 理事

池田恵子（静岡大学 教員）＊

岩城幸男（ボランティア）

大橋正明（恵泉女学園大学 教員）

里見駿介（財団法人海外職業訓練協会（OVTA）国際アドバイザー）

城千聡（練馬ボランティア・市民活動センターボランティアコーディネーター）

田尻佳史（特定非営利活動法人日本 NPO センター理事・事務局長）

筒井哲朗（シャプラニール事務局長）

中本かほる（財団法人福岡 YWCA 理事）

森田恵（ボランティア）＊

辻村聖子（恵泉女学園講師）＊

東田芳治（ボランティア）

徳木久人（ボランティア）

永井幸子（UI ゼンセン同盟）

長畑誠（あいあいネット専務理事）＊

西野桂子（特定非営利活動法人ジューエル・インスティテュート代表理事）

新村恵美（目白大学教員）

子島進（東洋大学准教授）

前澤哲爾（山梨県立大学教員）

山崎みどり（全国友の会中央部中央委員）

吉田ユリノ（シャプラニールとちぎ架け橋の会代表）

＊印が、2009 年度の新任役員

## 監事

雨森孝悦（日本福祉大学教授・国際センター長）

梅沢良雄（弁護士）

福澤郁文（株式会社デザイン FF 代表／グラフィックデザイナー）

## 評議員

荒木美奈子（お茶の水女子大学教員）

五十嵐理奈（福岡アジア美術館学芸員）

磯野昌子（かながわ開発教育センター理事・運営委員）＊

岩附由香（特定非営利活動法人 ACE 代表）

遠藤絵理子（シャプラニール地域連絡会大阪代表）

遠藤大輔（シャプラニールユース・チームボランティア）

萱野智篤（北星学園大学教員）

斉藤千宏（日本福祉大学教授）

坂口和隆（特定非営利活動法人日本 NPO センター）

佐竹町子（シャプラニールユース・チーム幹事）

下澤嶽（ジュマ・ネット代表）

白土謙二（株式会社電通 執行役員）

庄野真代（歌手、特定非営利活動法人国境なき楽団代表）

ジュエル・M.Q.（シャプラニール劇団）

鈴木隆二（ぐらする一つ代表）

田中治彦（立教大学教授、(特活) 開発教育協会評議員）＊

田辺洋一郎（PR コンサルタント、ボランティア）＊



# シャプラニール用語集

## 海外活動

### ■エスニックマイノリティ

いわゆる少数民族のことを指す場合が多い。しかし、民族という用語の意味するものが多様であるため、ここでは異なる言語や文化などを持つ集団に対し、相対的に従属するような立場におかれている人々を指すこととする。

### ■エンパワメント

人々の意識と能力の向上。または向上すること。用法によって多くの定義が存在するが、シャプラニールでは主に、当事者が自ら課題を認識し、その解決に向けて行動するための力がつくことを指して用いている。

### ■家事使用人

バングラデシュはもちろんのこと、南アジアでは中産階級以上の多くの家庭が、貧しい家庭の女の子をいわゆる「お手伝いさん」として置いている。その多くはきちんとした雇用関係になく、劣悪な条件で働かされている。このためシャプラニールでは、職業としての家政婦と区別するためにこの表現を用いている。

### ■家政婦

本人の意志とは関係なく働かされている子どもの家事使用人と区別するために用いている表現。シャプラニールでは2006～2008年度まで、コルカタ周辺で家政婦として働く成人女性への支援活動を行っていた。

### ■寡婦

夫を事故や病気で亡くした女性のことを、便宜的に指す。女性に対する社会的な制約が多く、就業機会も非常に限られているバングラデシュの社会において、子どものいる、いないにかかわらず厳しい生活状況におかれている場合が多い。

### ■コミュニティ防災

自然災害に対して、事後の対応よりも予防を重視する防災に注目が集まってきているが、従来の政府や公的機関によるトップダウン的なものではなく、地域社会・住民による活動を中心とするものを指して言う。

### ■ストリートチルドレン

都市部の路上を生活の基盤とする子どもたちのこと。狭義には親元を離れ、家をもたずに生活する子どもを指すが、広義には家族ともにスラムなどに住みながら一日の大半を路上で暮らしている子どもを含めて用いる。

### ■チョール（中洲）

バングラデシュの公用語であるベンガル語で中洲を意味

する。雨期になると消滅してしまうものから、100年以上も前から存在し、学校や市場が存在するものまで、さまざまなものがある。チョールに住む人々の生活は、一般の地域のそれよりも厳しく、公共サービスや生活基盤整備が遅れている。

### ■取り残された人々

シャプラニールの中期方針（2007～2011）で示された、取り組みを強化していくべきと考える活動の当事者。経済社会発展や開発援助から「取り残された人々」のことを指す。

### ■取り残された人々を取り巻く人々

前項と同様に中期方針で、「取り残された人々」とその周辺にいる地域の人々と交わるとともに、それを支援する地域のNGOや中産階級の人々、行政や企業などに積極的に働きかけ、あるいは巻き込みながら活動を進めることをうたっている。

### ■ノンフォーマル教育

学校教育（フォーマル教育）とは別に、特定の集団に対して行われる組織化され、体系化された教育活動を指す。1960年代、学校教育が十分普及していなかった第三世界における教育戦略として普及した概念。

### ■働く子どもたち

狭義のストリートチルドレンと区別するため、親元から通い、または住み込みで働いている子どもたちのことを指して用いている。こうした子どもへの支援活動は、バングラデシュ、ネパールともに都市部で取り組んでいる。

### ■パートナー団体

シャプラニールと理念や価値観を共有し、ともに活動する現地NGOのこと。地域や課題によって多くの組織がシャプラニールとパートナーシップを結んでおり、現場での活動実施を担っている。

### ■マイクロクレジット／マイクロファイナンス

貧困層を対象に、貧困緩和を目的として行われる少額の無担保融資のこと。バングラデシュのグラミン銀行によって開発されたモデルが世界的に知られており、シャプラニールも1980年代後半から活動の一部として取り組んできた。

## クラフトリンク

### ■クラフトリンク南風 (なんふう)

2003年よりシャプラニールのフェアトレード部門を「クラフトリンク」と呼んでいる。これにはクラフト(手工芸品)を通して人々がつながり(リンク)、作る人も使う人も共生できる社会づくりを目指すという思想が込められている。また、クラフトリンクが扱う製品を南(南アジア)の風(人々、生活、文化、活動)を伝えるものとして捉え、ブランド名を「南風(なんふう)」とした。

### ■世界フェアトレード機関(WFTO)

フェアトレードを実施する団体、それを支持する団体、個人、研究者などが加盟するフェアトレード推進組織。IFAT(国際フェアトレード連盟)から名称変更した。

### ■トラカムバック

阪神タイガース承認のバッグ。ネパールのパートナー団体 WSDP によって生産され、売上の一部が野生のトラ保護活動に寄付される。市民活動団体「2025プロジェクト」との協働により販売キャンペーンを実施、大きな反響を得た。

### ■フェアトレード

日本語では公正貿易と訳される。生産者の生活向上を目的とした、対等な貿易の関係。ヨーロッパやアメリカを中心に広がり、近年日本でも関心が高まりつつある。

### ■モニタリング・評価

クラフトリンクの活動が指針ののっとり適正に行われているか、生産者の生活向上に役立っているかを確認するために、定期的な生産者への訪問やパートナー団体からの評価といった作業を行う。その結果は報告書にまとめる予定。

### ■楽天市場(らくてんいちば)

日本最大級のインターネット上の通信販売ショッピングモール。店舗数は65,000を超える。シャプラニールは2003年から「クラフトリンク南風(なんふう)」の店舗名で出店している。

## 国内活動

### ■2008年G8サミット NGO フォーラム

2008年7月北海道の洞爺湖で行われた「主要国首脳会議」(G8サミット)に向け、環境、平和、人権、世界の貧困問題の解決と開発などの地球規模課題に取り組む141のNGOによるフォーラム。シャプラニールは貧困・開発ユニットの運営NGOとして参加し、キャンペーン活動、具体的には「100万人のたんざくアクション」を通じて、市民が地球規模の課題を知り、行動してもらうための意識啓発と、意見表明の機会提供にかかわった。

### ■ステナイ生活

書き損じはがき、使用済み・未使用切手、プリペイドカード、本、CD、DVDなどを収集し、国内で換金し海外活動に役立てる参加方法。

### ■特定非営利活動法人ソムニード

1983年に設立された、岐阜県高山市にある民間の海外協力団体。インド、ネパールの国際協力活動とともに飛騨高山で在日外国人向けの日本語教室など地域づくりの活動を行っている。

### ■ブックレットシリーズ

シャプラニールの活動や南アジアの文化、風習などを伝える書籍。現地駐在の経験者が執筆を担当し、過去11冊が発行されている。

### ■ブランディング

企業・団体などが他と差別化し、市民にその組織の「らしさ」やイメージを浸透させるため行う活動。ロゴマークやウェブサイトを含む広報物など、市民とのあらゆる接点で意識される。

### ■プレスリリース

新聞、テレビ、雑誌などのマスメディア・報道機関に情報を提供し、ニュースとしてその情報を社会に広める広報手法。客観的な情報として伝わるため情報の信頼性が高まる。

特定非営利活動法人



＝市民による海外協力の会

◆東京事務所（火曜日から土曜日 10:00～18:00 月曜・日曜祭日定休）  
169-8611 東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内  
TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593  
E-mail [info@shaplaneer.org](mailto:info@shaplaneer.org) Web site <http://www.shaplaneer.org/>

◆ダッカ事務所  
9/19 Iqbal Road, Block-A, Mohammadpur, Dhaka-1207, Bangladesh, G.P.O BOX 332

◆カトマンズ事務所  
Kupondole, Lalitpur, Nepal, P.O.Box23884